

と語り
語りな
おし

2	相談と企画・・・展覧会ができるまで
23	マネジメント・・・ある声を聞いている
36	東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センターについて
54	情報発信・付録

語りとおし

2	相談と企画・・・展覧会ができるまで
23	マネジメント・・・ある声を聞いている
36	東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センターについて
54	情報発信・付録

この本で、障害者の芸術活動支援モデル事業から通算して4冊目の報告書になります。表紙からなんと手に取ってみようかと思ってもらえるような本づくりを意識してきました。そこから、障害のある方の表現活動を知ってもらうきっかけになったらと。有難いことに関係者に配りたいから追加して送ってほしい、この本を参考に何か取り組みをやってみるといった声も多かったです。本をつくってみて違和感も残りました。それがなんなのかよく分からなかったので過去3年間の報告書や他の参考書籍を片っ端から読んでみました。共通する違和感がある本もいくつかありましたが、結局それがなんなのか分からず気持ち悪さが募りました。

『福祉の現場ってついつい笑顔ばかりがクローズアップされるんですけど、ここでは真剣な眼差しに出会えるんですよね。』ぼーっと眺めていた動画からふいに福祉施設職員のコメントが流れてきました。違和感の原因が分かりました。これまで作ってきた本は綺麗すぎる。報告書という体裁にこだわることなく、目的と伝えたいことを重点的に書くことに決めました。なんとなく研修やイベントをやっていることが分かって、これって結局なんなのという構成はやめよう。

今回、我々が伝えたいと思ったことは2つあります。一つは展示会をつくり上げていくまでの詳細な流れを伝えること、もう一つは様々なアーティストの様々なマネジメントのあり方です。1年間を網羅した報告書としては不十分です。だからこそ充分だと思っています。

東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター
新潟県アール・ブリュット・サポート・センターNASC
センター長 坂野健一郎



相談
課題

私の作品を展示して
もらえますか？

新潟県アール・ブリュット・サポート・センターNASCに寄せられる、もっともよくある相談の一つが作品展示にまつわる相談です。展覧会を企画する団体との連携を通して、NASCとしても、これまで様々な展覧会を企画・協力してきました。しかし、一度の展覧会に参加できる作者は限られています。「すみません、今回の展覧会の趣旨では展示が難しいです。」そんな風に、お断りすることも少なくありません。

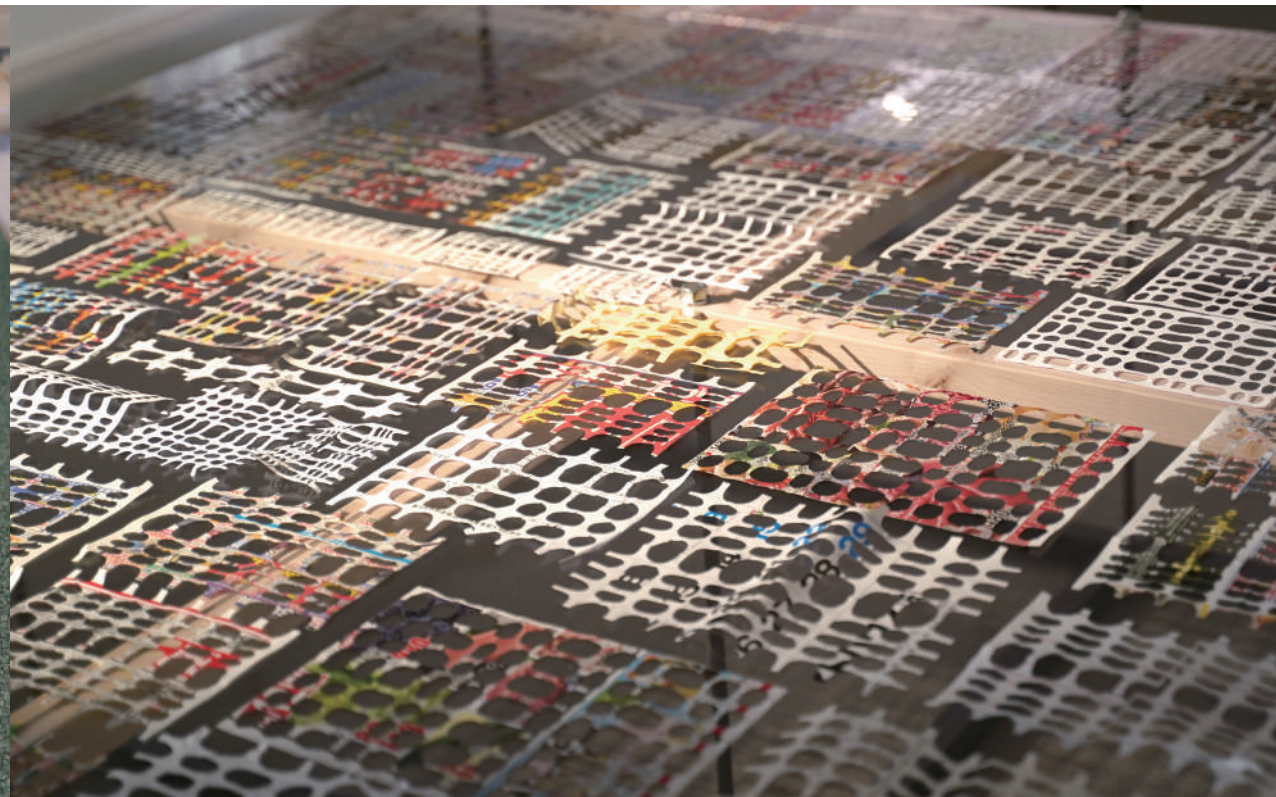
「また私の作品をおいていませんか？」ある展覧会を開催した際に、当事者の方から言われた言葉です。「今回の趣旨では、」とお答えしながらも、展覧会としての質を求め続けていくと、展示される作者が、だんだんと重なってくる、展覧会のそんな一面もまた事実として思い浮かびました。

より多様な表現を扱いながらも質の高い展覧会、多様な表現が扱われているからこそ、魅力ある展覧会はどのように作れるか？そんな課題が見えてきました。

ある声

また私の作品をおいてませんね？





五井雅人さんの作品。幾何学的に切り抜かれたチラシやレシート。日々自宅で切ったものを、福祉施設に持って行き職員に手渡しているという。

背景 アール・ブリュットの 特徴とは？

アール・ブリュットとは、アールは「芸術」、ブリュット (Brut) は「磨かれていない (加工されていない) 生のまま」という意味を表すフランス語です。広義には、伝統的な文化や流行、教育などにとらわれず、独自の発想と方法により制作された作品のことを指します。

その特徴の一つが、「作品」が作っている人と周りの人との「関係」の中で生まれている点です。作者本人が「作品」と意図せずに作ったものでも、周りにいる人たちが魅力を感じ、展覧会で「作品」として紹介される、そんな一面があります。そのため、周りにいる人たちが、どのような視点、価値観を持って作者の表現を見つめるかが「作品」に大きく作用する特徴があります。

作っている人と 周りの人との関係とは？

みなみさんさようなら、と書かれた箱。福祉施設職員の南さんが、施設を離れる時にメンバーからもらった箱です。その中には、お別れのメッセージと共に、折り紙で作られた指輪や、新聞紙に包まれた空き瓶のようなもの、どこかで買ったお土産など、メンバーそれぞれの多様なサヨナラの表現が詰まっています。

もの、それ自体は私たちにとっては作品とは呼べないものたちです。しかし、贈られたものとしてもを見たときには、それらから、南さんとメンバーの関係性を想像する楽しさが生まれます。

アール・ブリュットの特徴の一つは、作っている人と周りの人との「関係」の中で生まれていることです。であれば、その関係自体に焦点を当てた機会を作ることで、いわゆる作品とは異なる、アール・ブリュットのようなものが見つかるかもしれません。雑多な表現が混ざりながらも、関係を通して楽しめる、みなみさんの箱のような場所、展覧会を作れないかと考えました。

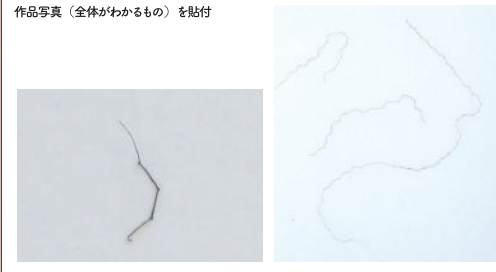
【モノ】について **記入見本** 上越アール・ブリュット公募展 出品申込書【表】

氏名 （作家名）	ふりがな ごい まさと 五井 雅人		生年月日	西暦 1997年 〇月 〇日 (〇〇歳)
連絡先 （職名を〇で囲んでください）	住所	新潟県上越市〇〇町1-2-3		
電話番号	080-■■■■-△△△△ ※電話番号は記入してください			
作品題名	ふりがな むだ 無題			
作品点数	点 数えきれない	大きさ	高さ なし センチ 幅 10 センチ 奥行き なし センチ	

作者による作品のPRや紹介など、ご自由に記入してください（200字程度）

壁の毛が均等な間隔で只々結ばれているだけで、その単純さによって生まれている毛のかたちには、独特なリズムがある。また、その均等さや壁の毛が端まで結ばれているなど恐ろしいほどの高い技術で結ばれている。実際に手にとって毛の上に指を滑らせると言い様のない気持ちになる。

作品写真（全体がわかるもの）を貼付



【語り】について 上越アール・ブリュット公募展 出品申込書【裏】

語り手	作者本人 推薦者 （職名を〇で囲んでください）	語り手の名前	ふりがな すずき ゆうへい 鈴木 裕平	作者との関係	支援員
-----	-----------------------------------	--------	--------------------------------------	--------	------------

【推薦者記入】モノにまつわる作者とのエピソードを記入してください。

アール・ブリュット展を見て感化された福祉施設職員が、その後自分の施設に戻り施設の中を眺めた際に、更衣室の床に奇妙な毛が落ちていることを発見。よく見ると結ばれていることに驚き、それ以降床に落ちている毛を探し集めていた。その後、五井さんが作者だと特定する。現在では、職員が五井さんに毛を渡し結んでもらっている。

【語り】にまつわる写真を貼付【例：制作風景、エピソードにかかわる出来事の写真など】



応募用紙の記入見本では、五井雅人さんが作り出す、等間隔で結ばれた毛と、それを見つけた支援員さんとのやりとりを例示。その結果、いわゆる作品に収まらない多様な表現が集まった。



天皇陛下御即位記念 第34回国民文化祭にいがた2019
第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会

上越アール・ブリュット公募展

作品募集

募集期間 2019年7.22月 - 8.13火



- 【公募期間】 2019年7月22日～8月13日
- 【周知方法】 ●NASCのWEB・SNS[Facebook]への掲載
<http://niigata-artbrut.net/nasc/news/535/>
<https://www.facebook.com/NiigataArtbrutSupportCenter/>
- チラシ郵送、設置依頼
 新潟県内福祉施設・文化施設等へ 1,000件
- 電話での応募依頼
 新潟県内100件
- 【応募者数】 100名 約2,000点

モノとモノガタリ、集めます。
 関係を集める公募展

平成27年から開催してきた上越アール・ブリュット展では、優れた表現を広く紹介する機会でありながら、地域に暮らす障害ある人たち自身の展覧会にもなるよう企画をしてきました。

今年度は新たな作り手、支え手と出会う試みとして、新潟県内で初めて公募という方法を通して展覧会を企画しました。

作っている人と周りの人との関係を集められないか、との思いから「モノとモノガタリ」という募集テーマを通して公募を行いました。

偶然できたもの
 意図して作ったもの、
 引き出しにしまっているもの、
 引き出しに入りきらないもの、
 それを誰かに見せたい気持ち、
 よくわからなくて困ったけれど
 ずっと頭の中に残っている出来事。
 教えて下さい。

あなたの「モノとモノガタリ」



気になったのは【馬場悠斗さん】。私も子どもがいるので、お母さんの目線でこの壁の落書きとかを見ると、かなり葛藤もあったのかな。お母さんの大変さが伝わってきて、さらに見たくなった。作品を通して親子がいい関係になってきているのかな。

小川直美

(社会福祉法人十日町福祉会 障がい者地域生活支援センターあおぞら 相談員)

僕の基準は、見た時に、これ、なんやねん！！と思うもの。2つの方向で選んだ。①文句なく楽しいもの。②わけわからんなあ、この発想は。というもの。その先に、この人に会いたくなるな、という観点で選んだ。むしろ、お盆(大橋加奈さん)なんて僕は選びそうにない。他の委員が選んだのを見ている方が楽しい。

里見喜久夫

(季刊『コトノネ』発行人/編集長)

基準は3つ。

①美術の公募展と一番の違いは支援する方々の顔が見えること。支援している方の許容の広さや、笑顔が出てくる作品。そういう舞台裏も見えていいのではないかと思った。

②年齢層を広げたい。いろんな視点で見ていることが示されればいいな。

③“よく見となる風景”と募集チラシにある。応募書類を見ると美術館には収まらないタイプのもので感じたが、展覧会なので鑑賞者の視点にたつてどう見えるか。こんな世界って見たことありますか？と提案できるもの。鑑賞者や支援する人含めワクワクしたとか、よかったな、とか楽しめる展示であってほしいと思う。

丹治嘉彦

(美術家・新潟大学人文社会科学系教育学系列教授)



意思表示カード【菅美帆さん】。伝えたいという切実さ、実際に使われている感じが伝わってくる。絵柄がかわいらしい。怒っているという表情がいい。このカードで怒っていると示されたらギスギスしなくてすみそう。支援員さんの推薦文がとても感動的で涙がでてしまう。

古泉智浩 (漫画家)

普段仕事をしている老人ホームの利用者の方は身体が不自由だったり、意思疎通もよくできない状態で、職員皆、相手がどう思っているのか、何を考えてらっしゃるのかをなかなか見抜けないう中、葛藤しながら仕事をしている。そんな中選んだ。

石田浩二

(一般社団法人新潟県介護支援専門員協会・新潟県老人福祉施設協議会理事)

自分がいいと思ったもの、気になって仕方ないものを選んだ。自分が普段施設にいて、毎日毎日利用者の方が持ってこられるものって当たり前になりすぎていて、そうじゃないものを選んでみようと思った。

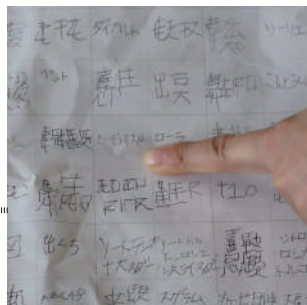
近藤麻理子

(特定非営利活動法人 アビリティィ 理事長)

自分の視点は、自分で描くとか、作るでもないような、行為によって結果的にできているもの。象徴的なのは木を削る方【佐藤琴子さん】。あとは、新聞の顔切り抜き【今井真由子さん】。丸シールを重ね貼りする方(選外)。確実に支援者、保護者が一応表現だと見つめる視点があるから出てくるタイプのもの。行為とそれを見出す支援者の物語が気になっている。

アサダワタル

(文化活動家・品川区立障害児者総合支援施設 コミュニティアートディレクター)



**多様な表現を、
多様に選べるか？**

【選定委員会】2019年8月23日

公募の選定委員には複数の分野の7名の専門家へ依頼し、多様な評価軸で作品選定を行っていただきました。選定基準は委員それぞれ「なんか気になる、もつと知りたい」です。美術的、福祉的な観点を踏まえ、作り手や周りの人の

関係に注目しています。そのため、選定委員には、観覧者へ作品の面白みをガイドする案内人となってもらいたいとの依頼を行いました。各選定委員2名ずつ(委員1名のみ3名選出)、合計15名の作者の選定を行いました。





訪問調査 — 代わりに問いかける方法



選定委員会で選ばれた作者への訪問調査では、一箇所につき、概ね2時間の調査時間を設け創作背景や語り手との関係性を探りました。今回の公募展の中でもとりわけ「なんか気になる」気持ちにさせたのが、「皮削り」と題された作品です。作り手は佐藤琴子さん、語り手は母親の佐藤裕子さんです。木を丁寧に彫刻刀で削る「皮削り」。その行為の動機を知ろうと、「自宅に伺いました。琴子さんに直接「なぜ削っているんですか」と尋ねてみますが、「あ、はい。」と、それ以上の言葉は返ってきません。お母さんも動機はよく分からないとのこと。そこで、実際に皮削りを実演してもらったり、一緒に庭に枝を拾いに行ったりと言葉ではないやり取りを通して、皮削りに対する動機を探っていききました。それでも一人の質問者か

らだけでは続けていくと問いかけに偏りや行き詰まりが出てきます。そこで今回の訪問調査では、作者を選定した委員にも作家への問いかけ（質問ではなく）を2つ考えてもらいました。琴子さんを選定したアサダさんからの問いかけの一つが「夢の中でも削っていることはあるのでしょうか？」という問いかけです。その中でまず「夢は見ますか？」と尋ねました。すると琴子さんが習字を指差し、「あれです、ソロ」と答えました。どうやらソロという漫画の登場人物のソロだということのようです。ソロとは刀を使うキャラクターです。そこでハッと気がつきました。もしかしたら琴子さんは、ソロに憧れて彫刻刀を使い、木を削り、刀をつくっているのかもしれないと。皮削りという一見よく

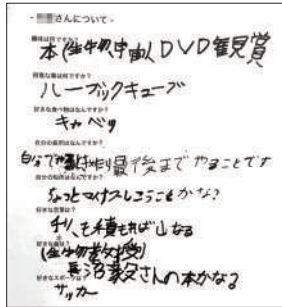
分からない行為の動機が、好きなキャラクターの真似という、多くの人が行ってきたであろう共通する動機と行為とが結びついたのです。佐藤さんの訪問調査以外の場所でも、選定委員からの問いかけで思わぬ話が引き出されることがありました。例え少し難しいかなと思っても、投げかけてみると思わぬ返答があったりもします。調査員ではない人からの問いかけを持って、調査を行うことの有効性を実感する調査となりました。

選定委員 アサダワタルからの問いかけ
 ・ここから一番近い庭に一緒に行きませんか？
 ・夢の中でも削っていることはあるのでしょうか？
 ・一本、私にくださいな。

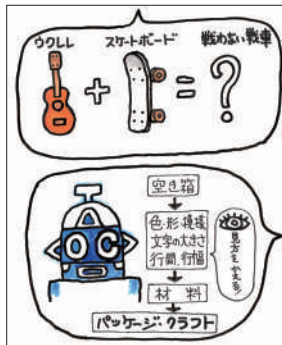
ある声

夢の中でも削っていることはあるのでしょうか？





創作にまつわる質問が書かれたシートへ
作者本人が書き込み形のキャプション



子供に向けたなぞなぞのような形の
キャプション



施設訪問とワークショップを通して
大学生が作者を紹介するキャプション



作品名	無題	
作り手	今井 真由子 1998年生まれ	
語り手	禾田 佑美子 APD:支援員 総務 / 施設職員	

【推薦者記入】モノにまつわる作家とのエピソードを記入してください。
作業場に掲示されているものや、置いたあるものを何の前触れもなく
瞬時に丸く抜き取ります。他の利用者さんから「この穴が六が
開いてるよ」とか「この穴だらけだ」と落穴られることも
抜き取られた跡には不思議な面白さがあり、笑いを誘います。

公募展の応募用紙をまとめるようなデザイン
応募用紙に書いてあった文章を転載・抜粋

いかに語りなおすか？
—ガイドブックの作成

作品と語りをつなげるキャプションの作成は、今回の公募展では特に大切な要素となりました。今回は応募用紙の語り、訪問調査での聞きとり、選定委員からの言葉、それらを組み合わせ、多面的にものを紹介することができないかと考えました。しかし、作品の側に文章のあるキャプションが配置されることが、却って作品そのものの鑑賞の妨げになる可能性もあります。そこで展示空間と語りを分ける「見る」と「知る」を分ける工夫として、語りを冊子にまとめ、ものと語りガイドブックとして会場内で配布しました。鑑賞者それぞれが自分の手で、読みたいときに読める形。語りを持ち帰れる形としました。



ホームページでガイドブックの
ページが閲覧可能です。



今井さんはどんな時に
切り抜きたくなると思いますか？

支援員A なんて丸くあげるかわからないんだけど、つねることと同じような動作なのかなと。イライラしていることもあるし、大きな声で怒鳴ってる声を聞くのは嫌だから。喧嘩とか始まるころころ切り始めたりする。なかなか言葉で表現できないので、それをあいつう行動に表すことがある気がしますね。まさに彼女の意思表示。

支援員B 逆もあるんじゃないかなって人もいて、切り抜きたくて切つてる顔もあるんだと思う。アンパンマンやドラえもんなんかはと真ん中だと思ってるよ。

支援員C 休み時間に私の車の前でハサミと鎌をもつて、こうやって……えーっ！みないな。そのときは、今井さん！危ないからどうしたの？どこからもってきたの？って感じてたけど。本人はさささって逃げてしまうので。


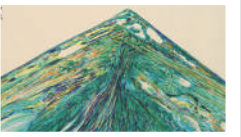

あとかから、私が帰るときに、なんであそこーにいたんだろうって思った。後部座席にアンパンマンのおっきい袋があったんです。あ、これか！って、私も助つきの時間がかかりました。

訪問調査の時のやりとりの書き起し
今井さんの表現する動機に対して、支援員AさんとBさんでは解釈が異なる。今井さん自身の動機が一つではなく、その都度異なることが垣間見えるやりとり。





表現のプロセスに他者を含んだ形
 実は表現のプロセスに他者を含んだ形
 表現のプロセスに他者を含まない形

③周りの人との関係の中でうまれてきたようなエリア		
どんな反応が ありえるか?	「わ、かわいい!」「え、同じ人が描いたの?」 →関係の中で表現が変わることを知るような	
どんなものか?		子どものために描かれた絵
		みんなに喜ばれたいと描かれた絵
誰との間で? なぜ作っているか?	山の絵を描いていたが 施設職員の子どもを喜ばせたら とキャラクター絵を描き始める	動物の絵を描いておりとても人気が あるが、もともとは辛さや切な さを表現する絵を描いていた
どのように 語りと繋げるか?		自分のために描いた絵との対比
		自分のために描いた絵との対比

①関係がよく分からないようなエリア		
どんな反応が ありえるか?	「ん、これはなに?」「え、なんでこれが作品?」 →まず疑問を引き出させるような	
どんなものか?		"切り抜かれた" チラシやレシート
		顔が"切り抜かれた"新聞紙
誰との間で? なぜ作っているか?	ハサミが好きで紙を切る 切ったものは施設に持って行き職員 さんに手渡すコミュニケーション?	彫刻刀を使って木を削る 実は刀を使うキャラクター への憧れ・真似?
		憧れのキャラクターも展示
どのように 語りと繋げるか?	穴の形の影が出るライティング	憧れのキャラクターも展示
		憧れのキャラクターも展示

ものとの語りの並べ方
 | 関係からの分類

選定された15組の作家をどのように並べるか。今回の展覧会では、「作品」が作っている人との関係の中で生まれている、その多様な関係のあり方を、展覧会全体を通して体感できる場にしたと考えました。そこでまず、それぞれの作者の表現を「表現のプロセスに他者を含んだ形」、実は表現のプロセスに他

者を含んだ形、「表現のプロセスに他者を含まない形」の3つに大きく分類しました。次にこの分類を通して作品群に対して、観客の反応がどのようにあり得るかを想定しました。その上で展覧会場を①〜⑤の5つのエリアに分け、順に表現のあり方に出合っていくように会場を構成しました。

④周りの人との関係、そのものを表現とするようなエリア		⑤表現が誰かへの関係に開かれるようなエリア	
どんな反応が ありえるか?	「この人、なんでつくったのかな?」 →伝わらないから、表現せざるをえないことを共有するような		「この人、なんのために作ってるんだろ?」
どんなものか?			
	意思表示するためのカード	斬られるパフォーマンス 生涯取得してきた賞状の束	戦わなかった戦車の物語
誰との間で? なぜ作っているか?	うまく言葉で表現ができないため 気持ちを表すカードを使う これまでパソコンの画像であった がある日自分で描くようになった	承認欲求から様々な資格をとる 今回の公募展も彼にとっては試験? 主役ではなく斬られ役をあてがわ れる生きづらさを表現	俺たちの友達のため 安全・安心・平和 次の世代(子ども)へ向けてつくる
どのように 語りと繋げるか?			
	カードを使っている本人の動画	1時間おきにパフォーマンス	仲間を募る箱
			実は①左の作家と同じ 展示順路の最初と最後での変化

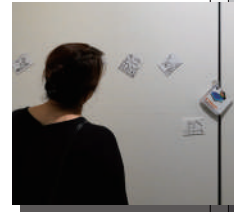
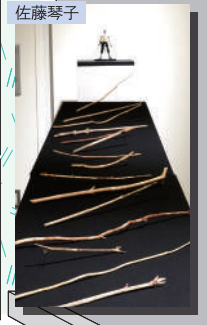
②自分との関係の中でうまれてきたようなエリア		
どんな反応が ありえるか?	「わ、かわいい!」「わ、たくさん!」 →つくる熱量を、物の量とともに共有するような	
どんなものか?		作業用のお盆に描かれた "顔、髪型"
		紙に描かれた "日付と時間"と"顔"
誰との間で? なぜ作っているか?	施設での作業の時間に 作業用のお盆に女の子を描く 衣服、髪型への関心	施設での創作の時間 に描く自画像 習慣的で均一な描き方
		福祉施設での創作環境の再現
どのように 語りと繋げるか?		日付順、一列に並べる
		家庭での創作環境の再現

- 表現のプロセスに他者を含んだ形
- 実は表現のプロセスに他者を含んだ形
- 表現のプロセスに他者を含まない形



出入口
↑

ものと言りの並べ方
— 関係からの分類



上越アール・ブリュット公募展
「ものと語り」
会期：2019年10月26日(土)～29日(火)
会場：ミュゼ雪小町
(上越市本町5丁目4-5 あすとびあ高田5階)

ホームページで展覧会の
写真が閲覧可能です。



情報資格試験さんにとっての アール・ブリュット公募展



「斬られるリアクション」と「資格でもがく」二つの作品を応募し、入選した情報資格試験さん。訪問調査と展覧会後のヒアリングを通して、上越アール・ブリュット公募展がどのような機会であったのかふりかえります。

訪問調査でのヒアリング 9/6

この公募展に応募しようと思った経緯について教えてください。

「市役所の福祉課で用を終えてロビーで色々と考えた時に、あの、病院帰りとかで苦しい状態だったんですが、いろんな展示物資料がある中で、パッと目にとまったんです。そこで、こういうこと（公募展 やってるんだって）ということを知って。で、自分には『認めて欲しい』とか『承認欲求』みたいなのがあるので、自分がやってきたことについて伝えられる場が、

ものだけではなく語りが必要な公募の形はどうでしたか？

「応募用紙を見た時に、髪の毛を結んであるって言うこの例があつて。あ、もうなんでもありませんだっていう。あ、何でもありだったら『これもありませんじゃない』っていう。でも、門前払いとか『まあ、ダメだったらダメだし』と思って、お送りさせていただいたんですけども。まさかここまで残ると思っていませんでした。」

「語りがあることで、こう表現したいことというのは、実はこうなんですよっていうことも付随出来るって言う。私がやってきた殺陣・チャンバラだと、よくある主役がかっこいい。主役が勝ってよかったね、となると思うんですけども。そうじゃないところにもスポットライトを当てると、こういう世界があつたりするかもよっていう。そういう表現が自分はしたいんだなーっていうことに、だんだん気づく機会になりました。」

「あの斬られ役はかなり頑張ってるんですね。（斬られ役が）こうやって頑張ってるから、（斬る役が）かっこよく見えるんだよっていう。何て言うか、その悔しさだったりとか、主役がいいなーとかいう羨望であったり、いろんな感情がない混ぜだと思っんですけど。そうだったところも、実はこうだったっていうことで表現できれば、報われるって言い方は変ですけれど（笑）」

作品題名：資格でもがく 作り手・語り手 情報資格試験

人生の途中から障害者になった者は、健常者とうやうやって張り合うか、認めてもらうかというのに、第3者が認める資格を考えた。健常者と同じ土俵の上で合格率を戦いあう。たとえ合格したとしても、他人からの評価を自分の価値に置いてある時点で、常に安心はないし自分の評価は自分で見るものと分かっていても、認知欲求は収まらない。障害者の懸命さを見る感動ポルノと見ててもよし、うちの会社の人材としてほしいというヘッドハントの目で見てもよし、どれだけ資格を取得しても直接的に何か生きていけるわけではないのですが、それでも、もがきながら次々と資格取得している、というところですよ。

「資格でもがく」についても教えてください。

「あのー、精神的なところがあるので、そのいろんなプログラムを受けて、

もしかしたらこれなのかもしれないと思って、ちょっとチャレンジしてみようかなと思っただけです。」

作品題名：斬られるリアクション 作り手・語り手 情報資格試験

「斬りたい。そう思って活動するも、『障害者だし』『万が一、何かあったとき責任が』と暗喩され、まわる役は斬られ役ばかり。ただ斬られてわかることがある。『斬られてあげないと、斬ったことにならない。斬られるリアクションがあつて成立し、斬られないと不成立。このパントマイムの様な世界、ときに鮮やかに散り、ときに目立たずに退く。血しぶきをあげずに色んな惨劇をあらわす。影が強くなれば光も強くなり、結果、主役が引き立つのだ。』

例えばどういう風に考えればいいよーとか。知恵としてルールを理解してはいたり、テクニクとして持つてはいたりするんですけども。わかっているけれども、現実そうはならないってところがあるんですね。」「やっぱり誰かから認められて、ようやくと安心したり嬉しかったりって言うところもあつて。でもそれって本当に心から喜ぶのかどうか。自分はそれでいいのかなっていう懐疑的なところもあつたり。」

「焦点と言つたことに価値を置いてるのかって言うのを常にふらふらしてるとっていう。そのふらふらさ、不安定さをここに変えてみたと言つた、書いてみたと言つた。その逆に不安定さを利用して、いろんな資格に挑戦して資格を取つていったってことでもあります。けれど、それを取つたから、合格した瞬間とかはやった！というよりは良かったあつていう。ほつとするとか、（言葉を探しながら）…ほつとする…でしょうね。ほつとした…それもほんと一瞬だけで」

「次、またどうしようこつから。引つ張つた紐がパツとなくなつて、次に何をつかまればいいのかなみたい。ある種この公募展へも、資格取得の一つとして応募しました。」

公募展の中でのお出来事 10/26〜29

「斬られるリアクション」パフォーマンス/資格でもがく展示

公募展当日、パフォーマンスを行うスペースには情報資格試験さんがこれまで取得した資格の束、資格でもがく」の展示とともに、応募用紙の文章を抜粋した垂れ幕を吊るし、小さな舞台を演出しました。

「斬られるリアクション」ではまず、情報資格試験さんによって観客との間に麻ひもで線が引かれます。そして、この線を境に動作の意味が変わってしまふ、との説明があります。次に観客が、お題の書かれた名札から気になったものを1つ選びます。そのお題に沿った何気ない日常の動作を観客が行うことによって、情報資格試験さんは派手に斬られ倒れてしまします。例えば、「ぶどう狩り」というお題では、観客がぶどうを収穫する動作によって、情報資格試験さんの首が落ちて絶命してしまふ、そんなパフォーマンスでした。会期中の4日間、1時間おきに10分間、1日7回、計28回のパフォーマンスを行いました。会場にはうめき声と笑いが響きました。

視覚情報試験さんとアートディレクターの角地が公募展についてふりかえりを行いました。

角地 公募展をふりかえってどうでしたか？

その公募展の前後で違いがあったよ、というところのほ
うがネタになると思うのでお伝えすると、公募展を経て、
障害者ですということをおオープンするようになりまし
た。また、絵を描くようになりネット上、SNSで発信する
ようになりました。その時も後手後に障害者ですとは
言わず、ポツポツと実は障害者のな目線でこういうこと
も思っているということを発信したりもしています。新
しい自分とまでは言い切れないけれど、新しいチャンネ
ル、一面が開かれたのかなという感じはしています。

角地 そうなんですネ。

認められたい、自分を満たしたいという欲を原動力に、資
格試験も継続してやっているつもりなんですけれども、
障害者ですという発信を始めてみると、それはそれで欲
が満たされているところがあって、二足のわらじが少し
難しくなってきました。勉強する癖が抜けて、いざ勉強
をしようと思っても集中できなかったり、というところ
もあって。近々に迫っている試験もあるんですが間に合
いそうにないかなと、記念受験になりそうです(笑)

角地 それは困りましたね(笑)

あのちょっと話が脱線す
るんですけども、展
示会があってから色々
考えるようになって、
ヘルプマークを身に付
けるようになりました。
有事とか災害とかめち
やくちやなことがあっ
た時に、こういう薬飲



角地 それはぎ・いい話ですね！

訪問調査の際には資格取得後の気持ちとして、パツと紐を
離されてしまう、だから次々と資格取得する、カルマに
落ちていくような感覚があると言われてはいますが、今回の
公募展ではそのような感じはありませんか？

多分そこまで行っていないかなと。まだ入門者だからこそ
その境地まで入っていないと思うか、その資格試験の
場合は横にも縦にも広がる場所があって気持ちが上が
ったり下がったりしていたと思うんですが、表現の場合
もカルマ的な部分はあるのかもしれないと思うのです
が、今は分からないですね。

角地

これは私が表現に対して思っていることですが、表現を資
格取得的に使っていくこともできると思うんですね。次々と
公募展に応募して金賞を狙っていくとか。ただ、表現
の特性として思うのは、評価がはつきりしない、その場
その場で異なるということがあると思います。資格試験
は合否がはつきりしていて、そのための練習方法という
のははつきりある。けれども、それがカルマに落ちていて
いくことにもなる。情報資格試験さんは今回、そんな苦し
んでいる私そのものを表現しました、これはもしかしたら
カルマに落ちにくい表現なのではないかと思いましたが。
例えば公募展も一つしかなければ、受け手はそれに合わ
せて表現を変えていかねばならず、時に苦しくなってい
く気がします。様々な面白がり方、評価軸のある場が複
数あることが大切な気がしています。

もの、と語りを、集める形について

角地

今回のものと語りという公募展を通して、支援員や家族、
当事者の方が語り手となることで、普段の行為や関係を
少しずらしてとらえられる機会になることを期待してい
たところがあります。今回の情報資格試験さんの応募用
紙を見ると、物については作者本人が私は、というよう
に書かれていましたが、語りの部分では自分のことを、
彼は”とか”当人は”というように、別人として書いて
いました。それはどのような気持ちからですか？

情報資格試験

客観視したいという気持ちがあったのかもしれない。た
だ随分前なので覚えていませんが、ただ例文として作り
手と語り手に分かれていたのでそれに倣う形で書いたの
かもしれません。

角地

僕が勝手に思っていたことは、公募展を通して自分のこと
を俯瞰して語ることができたのでは、と感じていました。
そのような語り口で公募展の意義を外に語れたら、という
気持ちもあって(笑)。ただ、改めてお話を聞いて思った



のは、情報資格試験さんは普段から自分のことを、めち
やくちや客観視しているタイプですよね。これまでにこう
いう風に自分を俯瞰して語ることはあったんですか？

情報資格試験

それはもちろん、病院ではカウンセラーさんであるとかド
クターさん、支援員の方にもそのように話をしていたり
しました。そういう方のお力添えがあって、カラクリが
あるということが見えてきて、なんとか生きていくのか
なということがあります。

あとがき

ふりかえりを通して、情報資格試験さんは自分のことを俯瞰的にとらえ、
語る術をケアの現場を通して身につけていたことがわかりました。それを
踏まえてみると、彼にとって今回の機会は、どう語るかではなく誰に語る
か、語りの対象が変わったことが大きな違いだったのだとわかりました。
ケアの現場の外の人、観客に向けて自己を語る。それが障害者を見つめ
直すことにつながった。もしかしたらケアの現場にも観客が必要なのかも
しれないと思いました。



上越アール・ブリュット公募展 事務局でふりかえりました

新潟県内初のアール・ブリュット公募展、言い出しっぺのセンター長坂野（以下：坂）、アートディレクター角地（以下：角）、事務局の渡辺（以下：渡）で雑感をふりかえりました。

作品を集める段階

角：今回、作品として立ち上げるまでの物語がある造形物などを集めた企画公募となったため、今までの公募展では出せなかった人でも応募できた人がいた。過去の研修会で繋がった人も出してくれた。研修に興味はあるが、参加できていないけど、応募はできた人がいた。関心が高い人がいることがわかった。もちろん新しい方からの応募もあったので、県内初公募の効果があった。

坂：50件くらいかと思っていたが、予想を超えて集まった。広報に関して、今までやってきた以上に何か工夫をする部分を考えていたが思いつかなかったⁱ。例えば、ネットも見ない、新聞も読まない人などへのアプローチ方法はどうするべきなのか考えさせられた。

渡：県内施設へ電話しての応募依頼や、今までで作ってきた関係性のある施設へいくつか訪問したこととはとても効果があったと思う。

角：いわゆる絵画の毛の造形物ⁱⁱに引張られた可塑性があるかな。

渡：ツイッターでの物語というか、エピソード募集もありましたね。結果的には上手く集められなかったかと。

角：造形物にまでもならないような、日々の小さな小ネタを集めたかったのですが……。

選定する段階……選定委員

坂：委員を7名とし、美術の専門家は1名のみ、他は編集者や漫画家、福祉施設関係者の中でも高齢・障害・相談支援員などの専門別にした。参考にしたのは、埼玉県の障害者アート企画展（公募展）方式。そこは美術の専門家が数名、福祉・行政・教育関係者などが50名程度で投票形式で選考。上越展は、委員の人数は絞り、分野を広くした。

選定委員会

坂：委員一人一人がこれだと丁寧を選んでくれた。前提として、もっと見たい、知りたいという選定基準もよかつたと思う。いろんな見方があるなと感じた。

渡：事前の打ち合わせなど丁寧な対応ができていた結果だと思う。

角：委員のバランス。選定委員会を開いてみて7名の選択するバランスが良いことがわかった。福祉ではない専門家アサダさん・里見さん・丹治さん）が福祉側の委員を支えた選び方をしてくれた。

二次（訪問）調査

角：作者への問いは選定委員に考えていただいたが、自分が全部調査へ行くことで近い距離感で展示を考えられたが、2週間で15人の調査は筋トレのよう、ハードだった……。

展示について

坂：お客さんの滞在する時間が長かつたように思う。常に人がたくさんいた。国文祭主催ということもあり、市報でも大きく紹介され、上越市内はじめ地元の人に多く見てもらえた。

角：展示ガイドブックは持ち帰って頂くことに重き

を置いている。展示室の横で読み返せる場所があるとよかつた。ガイドブックの素材として、録音・録画したものは大部分を書き起こしているⁱので、他の事業に転用していきたい。

渡：展覧会場として、前年度の寺のような空間は雰囲気はとても良いが、一方でメゾメントのホールは高くなる。搬入経路や展示部材、壁の素材、照明、天候、スタッフマニュアルなど、気にかねなければならぬことがとても多い。その点ミューゼ雪小町は展示会場として作られているため、搬入や部屋の寒暖など、基本的なことだが整っていることで運営の負担が減る。事務局スタッフの人数からすると、ミューゼ雪小町は気持ちよくやれた。角地さんと空間デザイナーの小出さんも展示構成に集中できたのではないかと思っている。

坂：昨年の寺の会場では入場が難しかった車椅子の方もスムーズに来場できた。最近ブロック内でも寺など建物自体に魅力ある場所ⁱⁱで展示される機会が増えていくが、改めて基本が整った会場で行うことで、アクセシビリティについて考えさせられた。

角：展示構成でいうと、作家の流れ、分類をかなりした。展示前半は周辺の人が面白がっているもの。後半は自分自身も美術作品制作を意識している人。他者の関わり、社会との関わりとのずれ、間から生まれていくもの、など。公募から選ばれたというのが作者本人や周りに効いているⁱと思っ。こちらからお願いして出展するのではなく、出したいから出して、さらにそこから選ばれた。施設、作者、家族にとつてはハレの場。祝祭感があった。施設毎に団体で見に来てくれたので、来場者数にも繋がった。

i 広報について ・作品募集：県内の障害／高齢施設

への郵送、県の障害福祉課からの一斉配信メール、県内施設へ直接電話してのお知らせ。

ii 招待出展の五井雅人さん

ある声

「自分は自分で、今後も思いやこれまでの経験を

物語でつづっていきます。なぜ私は表現するのか。

間違いなくこれまでの生い立ちや怒りがあるわ。

勝手に私を理解したり語ってほしくないっていうか。

目立ちたいわけじゃないんだけど、

自分のことは自分で伝えるわというか。

勝手に良いことしてるぶっている輩に腹が立つんですね。」



まるで映画のように

一人間やめて健常者になるくらいなら、かぶりものかぶって動物になった方がマシ。



◆登場人物 YOHKO

パフォーマー。2017年に開催した当センター主催のパフォーマー公開オーディション事業「あしたの星」2018年の「あしたの星☆2」へ出演。2019年アースセレブレーション（佐渡市）のフリンジや、同年りゅうとびあ新潟市民芸術文化会館のワールドダンスコンペティションに参加。新潟市内を中心に活動している。

坂野健一郎

当センター／新潟オール・ブリュットサポートセンター（NASC）長。社会福祉法人みんなできる法人本部所属。YOHKO氏からの電話・メールはほぼ全て坂野が対応している。

角地智史

当センター／NASCアートディレクター。普段は新潟市内にて当センターの事業を進めており、みんなできる法人本部（上越市）へは定期的に通う。

米田昌功

富山県障害者芸術活動支援センターぱいと◎とやま代表

荒川裕子

NPO法人福井芸術・文化フォーラム事務局／アートマネージャー。福井市文化会館を拠点として、舞台芸術に関するさまざまな事業を企画・運営している。

YOHKO

「綺麗ごとがどんどん私を傷つける。障害の害の平仮名標記に違和感を感じて早5年。競馬や運動会のように障害レースって言い方のほうがかっこいいので、だったら「生涯」にしろやって感じます。綺麗ごとをいうやつほど弱者がいなくて困る。何が障害を理解しませんでした。」

坂野
YOHKO

「あしたの星☆3あるんですか。案内がきたら教えてくださう。」

7月中旬
メール

「あしたの星3参加 とりあえずやりたいことから考えて応募だと思う」と書かれた表題のメールが届く。成育歴、学校生活、就職、アースセレブレーションのフリンジに出演することが書かれている。

坂野、一読して返信する。

メール
坂野

「熱意あるメールありがとうございます。あしたの星☆だけではなく、今、上越オール・ブリュット公募展の作品募集も行っていきます。興味があれば、ryuutoyobito.jp。http://nigata-artbrut.net/nasc/news/535/」

※その後、あしたの星☆3は10月13日に開催予定と坂野よりメール送信。

scene2

北の陸から、そして何から伝えればいいのか分からない（人がいる）

8月上旬
郵送

NASCへ大きな文字が書かれた大きな茶封筒が届く。上越オール・ブリュット公募展にYOHKOの作品『北の陸から』が封入されている。応募書類だけでなく、男性ファッション誌の付録に20代の頃の写真とこれまでの生



●新潟市北区文化会館（夕方）
2018年7月14日。YOHKO、パフォーマー公開オーディションあしたの星☆2で、カオス賞を受賞する。記念トロフィーと賞状を受け取りステージを後にする。

●事務所（昼）

2月下旬。朝から雪が積もり、暴風雪が吹き荒れる中、電話が鳴る。坂野、パソコンの入力を止め受話器をとる。

坂野

「こちら…」

YOHKO

「NASCですか？本間友一朗さんですか？角地さんですか？アート関係のイベントをやってますね。いつもチラシに担当・坂野と書いてますけどどんな人ですか？」

坂野

「どんな人ですかね。」

YOHKO

「色々、裏で操っているんじゃない。そんな感じがする。」

坂野

「そうかもしれません。」

YOHKO

「米軍の手先かも。」

YOHKO、そのまま電話を続ける。坂野、電話を受けながらパソコンの入力を再開する。通話時間が20分を過ぎたころから時計を気にしだす。

4月上旬。電話が鳴る。

坂野、ナンバーディスプレイを見る。見慣れた番号。受話器をとる。

YOHKO

「YOHKOですけど、先日は感情が高まってしまいましたませんでした。」

坂野

「そうですね。先日ってなんですか？」

YOHKO

「やっぱり生きづらさを病気のせいにしたのは許せない。YOHKOさんがつらいのは病気のせいだから。ふざけるな。いつも福祉は大事とか、ほざいている偽善者が一番腹立つ。」

坂野

「何かイベントに参加したんですか？」

YOHKO

「そんなやつらにどれだけ傷つけられてきたか。優しくするふりをして脅迫するし。色々と蘇ってきた。」

YOHKO、大きな声で電話を続ける。

い立ちをもとにつくられたエッセイが添えられた作品そのものが送られてきた。

8月中旬
メール

「NASCさん！いろいろプレッシャーなのに、台風の試練で最低限アースセレブレーション開催が目標になっている。」と書かれた表題のメールが届く。上越オール・ブリュット公募展に『北の陸から』という作品を応募すること、自分の気迫と意思の強さでアースセレブレーションを実行することが書かれている。

※その後、アースセレブレーションは決行。

●町家交流館高田小町

8月23日（金）。上越オール・ブリュット公募展出展作品選定委員会。和室に100名の応募用紙が並んでいる。7名の選定委員が、各々展示したい作品の用紙にシールを貼っていく。YOHKOの作品は選外となる。

真夏の日中

角地の携帯に見慣れた番号表示される。YOHKOからの公募展の結果の確認の電話だと思いつつ電話に出る。

YOHKO

「公募展の結果、どうでしたか？」

角地

「今回は選ばれませんでした。」

YOHKO

「作品の魅力が分からない人たちがばかりかもね。」

角地

「もう一つもより展があるのでそちらに出展しませんか？」

YOHKO

「かまいませんよ。」

あつさり電話を切る。

●JR新潟駅（昼）

9月上旬。角地、炎天下の中、清涼飲料水を飲みながら歩くYOHKOと遭遇。そのまま立ち話をする。
新潟駅2階西口改札に移動。第19回全国障害者芸術・文化祭のプログラムで

iii 1988年から始まる佐渡島での国際野外フェスティバル。国内外のアーティストが集い、豊かな自然・文化の中で、太鼓芸能集団鼓童が佐渡市とともに開催している。

ii NPO法人アートキャンプ新潟のスタッフ。アートキャンプ新潟は2013年に発足した新潟県内の障害のある人の創作活動を豊かにするため、様々な活動をおこなう団体。本間氏は2018年度の新潟県域の支援センターを受託した際の事業担当。

i ステージがあがって、誰かに自分の表現を伝えたい、そうした思いをもった方が、障害の有無に関わらず独自のステージを繰り広げる。2019年3回目の開催を予定していたが、台風により中止となる。

scene1 ものがたりは突然に

実施されている仮囲いアートの前で、YOHKO、ポーズをとりその様子を角地が写真におさめる。

メール
YOHKO

公募展落選についての感想

『角地さんから公募漏れの話を書きました。が、ショックでないです。っていうか人と競うもんじゃないんで。長期戦ですし、空中分解している私がただ書くことによって何となく整理されているだけだし。あと、9月21日のアクセシビリティ研修、参加します。』



●新潟国際情報大学(新潟市) 中央キャンパス
9月21日。アクセシビリティ研修。講師は未来言語。参加者は50名程度。5〜6名のグループに分かれる。YOHKO、動物のかぶりものをかぶって参加。講師の未来言語が出す課題に対してチームで解決に導く。プログラムはとても良かったが、とても不快な思いをしたと言っている。

【アクセシビリティ研修】

新潟県障害者芸術文化活動支援センターの事業として開催。誰もが表現活動を楽しめるための人材育成を通じた環境整備を目的に実施した。講師は視覚障害/聴覚障害/知的障害/外国人といった、いわゆるマイノリティと言われる人々のコミュニケーションの中から新たなコミュニケーションの手段を開拓している未来言語。『見えない、聴こえない、話せない対話』をテーマにどんなコミュニケーションの手段が制限されていくワークショップを通じてコミュニケーションのあり方を学んだ。約50名の参加があり、身体・知的・精神障害者の3障害の他、ひきこもりやいきづらさを抱えている様々な方が参加した。また、カフェの店主、学生、美術館職員など福祉関係者以外の分野から多くの参加があった。

「未来言語」ウェブサイト <https://nitraingo.net/>



た方もいたかもしれません(いないかもしれません)。主催者としてもチラシの配布方法など、ちゃんとルールを決めた方が良くないと勉強になりました。』と返信。

10月上旬。メールであしたの星☆3の最終プロットが届く。

メール

YOHKO

プロット

演題：「夜行列車、ミッドナイトバス」

- ① YOHKO、舞台中央に立ち、寺尾聡の「ルビーの指環」の歌詞の一部アカペラで歌う。
- ② アカペラ終了後、台詞(今回はたったこれだけ) あゝあ、もう終わろうかな、「彼」と。この指環と一緒に葬ってしまいたい
- ③ 同じく寺尾聡の「シャドーシティ」BGM インで、パフォーマー開始。 4分32秒 寺尾聡アルバムCD「リフレクションズ」持ちこみ
- ④ 今回は舞台からはけるも、再び戻り、おじぎして、パフォーマース終了

●上越新幹線(夕方)

10月10日。台風の進路によっては、あしたの星☆3が中止になる可能性が出てきた。坂野、YOHKOに一報を入れる。

坂野

「台風が高確率で13日に上陸しそうです。あしたの星☆が中止になる可能性があります。」

YOHKO

「え、絶対来ないので大丈夫。」

●朱鷺メッセマリンホール(朝)

10月11日。坂野、会議出席中に13日に新潟への台風上陸がほぼ確定という知らせを受ける。あしたの星☆3の中止を決定する。坂野YOHKOに一報

●事務所(昼)
研修から数日後。事務員が電話をとる。YOHKOが凄く怒っているとのこと。坂野電話を代わる。受話器から大きな声が聞こえる。

YOHKO

坂野

YOHKO

坂野

YOHKO

「アクセシビリティ研修、本当に楽しかったです。だからこそとてもとても怒らずにはいられないことが。本当に何様?」
「どうしたんですか。」
「何も言わずにチラシを配っていた人がいたんですよ。他の方は、ちゃんとNASCCさんに話を通して受付に資料を置いていたじゃないですか。あの人はそんなに偉いんですか。」
「勝手にチラシを配っていたと。全然気づきませんでした。」
「せっかく、NASCCさんはアクセシビリティ研修を主催したにも関わらず、1人の空気の読めない輩が他の参加者に一言もなくチラシを配って、企画を台無しにした気がしました。一言や、声掛けから色んな配慮がうまれるわけじゃないですか。それがアクセシビリティじゃないですか。それを土足で踏み込まれた気がして、腹が立ちました。」
「そこまで考えてくれてありがとうございます。そのとおり。主催者としても勝手にチラシを配られたりするのはい良い気持ちではありません。」

坂野

scene 3

中止その1

メール

YOHKO

標題『PS AFTER 未来言語から、1週間後。』と書かれたメールが届く。『この度は騒いでしまい本当に申し訳ないという気持ちと、同時にあの踏み込まれた行為で傷ついたことを聞いてくれてありがとうございます。一方的なやり取りを受け取ると、様々なことがフラッシュバックします。特にあなたのことを理解しているというマウントをとる態度は許せません。あたかも福祉に携わっていることをしている方の言動を見ると、人間やめて健康者になるぐらいなら、かぶりものがぶって動物になっただ方がマシ。』

坂野

メール

『参加者の気になる立ち回りを教えていただき有難かったです。もしかしたら関口さん以外にも同様の対応で、傷つい

を入れる。

坂野

YOHKO

メール

YOHKO

電話直後に『未来言語から、あしたの星☆大かま 中止にはさせない。』という表題のメールが届く。『中止イヤだー!! 大丈夫でしょう?半野外ステージなのか?中止はいけないです。もし本当に中止になるんなら、もう試練とかしか言えん。』
『今回は、安全第一で中止になります。この中止になった思いも含め、どこかで発表の機会を設けるのでまた来てください。その前に上越の展示会を見に来てください』と坂野が返信。

坂野

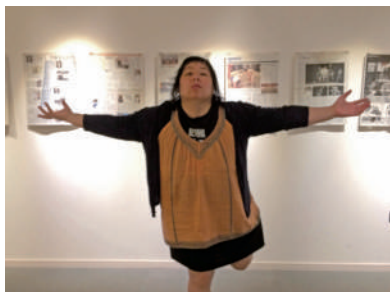
メール

●上越市ミューゼ雪小町(朝)

10月26日。上越アール・ブリュネット 公募展開幕。展示会場向かいの休憩室から大きな声が聞こえる。角地とYOHKOが黒い椅子に座って談笑している。

坂野

「来てくれてありがとうございます。YOHKOさんの作品が飾ってあるものより展示場にいるのの後で見に来てください。」



YOHKO 「安いご飯を探してから行きます。」

坂野、早々に立ち去る。

●イレブンプラザ

YOHKO、もちより展会場のリブレリアホールの真向かいにあるイレブン

プラザの椅子で昼食をとる。その後1時間程度、リブレリアホールの様子を見ている。

● リブレリアホール
地域の様々な方の作品が並んでいるリブレリアホール。その奥のダンボールに YOHKO の作品が展示されている。

坂野
YOHKO
「ここに YOHKO さんの作品を展示しています。」
「長期戦ですよ。これからも物語はつづつていくし、どこまで書いたら怒られたり訴えられたりするのかわからないけど、表現していきますよ。」

その後、休憩スペースに座りスタッフや来館者との会話を楽しむ。大きな声に多くの方が振り向く。3 時間後に高速バスで帰って行った。

● 事務所（昼頃）

11月上旬。福祉現場におけるアートマネジメント研修の企画打合せ。上越アール・ブリュット公募展の検証を通じて、福祉現場での表現活動を広げていく方法を学ぶ内容とした。打合せ中に、YOHKO から電話がかかってくる。

YOHKO
「上越での展示会、とても楽しかったです。髪の毛の作品は難解で分からなかった。自分は自分で、今後も思いやこれまでの経験を物語でつづつていきます。なぜ私は表現するのか。間違いないこれまでの生い立ちや怒りがあるわ。勝手に私を理解したり話してほしくないっていうか。目立ちたいわけじゃないんだけど、自分のことは自分で伝えるわというか。勝手に良いことしてるぶつっている輩に腹が立つんですよ。」
坂野
「今度、上越の展示会をテーマに研修会を開催するんですよ。YOHKO さんは選外になっちゃっただけですけどそのことも含めて話してみませんか。ミニパフォーマンス付きで。」
YOHKO
「いつですか。どこですか。かまいませんよ。」
坂野
「本当ですか。2月25日、新潟青陵大学で。30分程度のセッションで。あしたの星☆が中止になった無念さも好きなことを話ってください。」
YOHKO
「ネタはおさえるけど、話していて怒りが湧いてきたら個人名が出てくるかも。」

坂野
「その時は、その時で。意味はよく分からなかったんだけど、

v 2020年2月25日新潟青陵大学（新潟市）にて開催。P48 参照

YOHKO
この前 YOHKO さんが言っていた、"人間やめて健常者になるぐらいなら、かぶりものかぶって動物になった方がマシ。"このフレーズ、印象に残っているんですよ。」
「偽善者面した輩ほど、暴力的で一方的。そんな感じにはなりたくないんで。それが健常者で常識だというなら、とことん反対路線ですわ。」

電話の翌日、YOHKO より研修のミニパフォーマンスのプロットが届く。

メール

YOHKO

YOHKO 6分間?ステージ「Spring Vacation」

舞台の中央でお辞儀をし、アカベラで DREAMS COME TRUE の「笑顔の行方」の歌詞の一部を歌う。

語り、仮ボエム

この春休みシーズン、私たちはどこに行くんだろう?今の、今までの道に行くにもマンネリ、方向変換とか

考えたくない、でも後悔なんてしない。私、結構失敗するけど、その尻拭いして、そこから学んだり、打たれ強くなっているから

TAMIA の「LEAVE IT SMOKIN」の曲でパフォーマンス開始（約3分50秒で最後はける可能盛大。「背もたれイス」が必要です。）

以上

YOHKO

『新しい事をするのもいいのですが、何か定着させるのもいいのかな?っていう中の一つです。ドリックムの笑顔の行方もいいのですが、大学という場所なので、前向きぶっているだけだから、いつその事彼女らの「さよなら」を待っている。』
「忘れないで」もいいんですが、そこは空気読みます。これから支度して職安に行きます。きのうめずらしく20時台上に帰宅し、お酒を片手にやっぱPCでダメ出ししましたので、明日はもう少し早く行こうとも思うので、結局は練習できない、っていうかゆーとびあで練習しますわ。』



●新潟県民会館小ホール(新潟市)

11月17日。YOHKO、第19回全国障害者芸術・文化祭のプログラムである文化ふつとつ！ステージショー「ステージ発表」に出演。

ポードレスとふつとつ！という表題のメールがYOHKOから届く。

メール

YOHKO

『ちょっと信じられない事がおこりまして、それが昨日の障害者音楽祭ーN県民会館の私の舞台にも激しく影響しました。何がって、あいつが20分程度障害者音楽祭に観に来ていました。障害者の舞台って客席が明るいことが多いのか、私が勘違いかもしれません。私は「新潟国際大事件」で騒ぎを起こさないと一応決めていて、なおかつあいつは私を脅しているので、動揺したのは言うまでもありません。私は13時半頃出席だったので、今年に限って、10時に始まりでしたので、勉強も兼ねて客席で他の人や団体のステージを見ていました。知り合いに声をかけていたようですが、どうか見間違えでありますように。」

だから午前中ですが、気持ちが悪く揺揺し、角地さんの携帯にも「絶対絶命かも」とメッセージをし、夜に飲もうと思つた心療内科のお薬を控え室に行き飲み、またスタッフさんには、引率者や出演者身内以外は入らないことを確認しました。警察につかまるって思つたんだもん。卑怯だよ!!!パンフや本日の「プログラム」とかで私が出るの知つても知らなくても、もし私に気づいたんなら、「警察ネタは動揺して」と安心させるのが筋なのでは?よくわからないけど。富山行きはなくなつたよ。』

●勝興寺(富山県高岡市)

11月下旬。YOHKO、ブロック展示会会場の勝興寺に到着。坂野・角地が会場にいたいと思いがつたが不在。NASC事務所に架電するも坂野は出張で不在。そのまま富山県の支援センターばーと◎とやまの米田代表と展示会受付付近で3時間程度話す。以後、ばーと◎とやまにも頻りに電話が届くようになる。

11月下旬。ブロック実践報告会の内容について、開催地である石川県の支援センターかけるの菊氏と相談する。福祉現場にある身近な表現を集めた事例報告会をメインに企画を整理することになった。パフォーマーとして

YOHKO

自分に行きますよ。米田先生は分からないです。」

坂野

「そうですか。」
「忘れてました。YOHKOさんに頼みたいことが。20分ぐらいなんだけど、金沢市でトークとパフォーマンスを披露してくれませんか。」

YOHKO

「かまいませんよ。」

電話の翌日。『20203 / 金沢の舞台プロットです。』と標題が記載されたメールが届く。

メール

YOHKO

YOHKO 10分間ステージ
「君の住む街で伝えたい事がある」 feat futotsuー Niigata REIWA
レポリューション」

第1部

舞台の中央でお辞儀をし、アカペラで陣内大蔵の「FIRST SNOW」の歌詞の一部を歌う。

語り 仮ボエム。

自分がなぜこんな風に生きているか、育った街を時々嫌がつて沖縄や北海道、時には海外で、旅行やバイトで滞在しているのに、自分の出身地北陸の一部のステージに立つとかつてありえないかも。どういわけかわかんないけど、今日私はここにいます。新潟が半分北陸の延長だと思っていたから、北陸と改めて向き合うも、20歳以降、進学で巣立ってからの方が本当の私だと思っし。後悔しない方を、楽なほうを選択し、何とかまなつているといか言えない。故郷を前にしても。

TAMIAの「LEAVE IT SMOKIN」の曲でパフォーマンス開始(約3分50秒で最後葉ける可能盛大。「背もたれイス」が後半も必要です。)

第2部(ここからふつとつ！)新潟障害者音楽祭につながる。

再び舞台の中央でお辞儀をし、アカペラで小田和正の「ラブストーリーは突然に」の歌詞の一部を歌う。

ドラマティックに

続いて、

YOHKOも講師の候補となった。

11月下旬。事務所。見慣れた番号がディスプレイに表示される。坂野電話をとる。

YOHKO

「富山に行ってきました。みんないると思つたんだけどいなくてショックでした。米田さんと話が出来て良かったです。展示会場の伏木地域は、駅に何もなく寂しい感じでした。米田さんは高岡市に住んでいるんですか。」

坂野

「展示会を見に来てくれてありがとうございます。そして会場にいらしてすいません。設営と初日だけだったんですよ。米田先生は高岡市じゃなかったと思います富山市かな。よく分からないです。」

YOHKO

「富山に行ったとき、そば、食べましたか。」

坂野

「食べなかったですね。もしラーメンを食べました。」

YOHKO

「米田さんは、トレンドイドラマや漫画の話をして通じませんか。」

坂野

「さあ。展示会、どうでしたか。」

YOHKO

「上越展とは違った良さが。展示よりも米田さんと話せたところが良かった。井の中の新潟のプタやキツネとか野良犬みたいなやつらと、悩みながら活動するのはうんざりしているのを打破したいという気持ちが大きくなっています。米田さんや、角地さんや坂野さんみたいなまともな人が少ないんですよ。直視しないんですよ、やつらは。私が抱えている悔しさや悲しさじゃなくて病気のせいにするんですよ。」

坂野

「新潟では活動しづらいた。」

YOHKO

「富山でもしづらいた。でも新潟のあいつらはいないし富山には米田さんもいる。新潟で2月までの間でなんかいないんですか。1月のアートキャンプ新潟の展示とか来るんですか。滋賀には米田さんも坂野さんも行くんですか。」

坂野

「2月25日までは特に何もありません。アートキャンプの展示も出張で行けないと思います。角地さんは行くかも。滋賀ってなんですか。」

YOHKO

「2月に大津で、展示会やパフォーマンスがあるじゃないですか。今、丁度アパートの取り壊しが決まり5月頃に出ていくことになって不安定。2月も準備で忙しいと思うけど、予定とお金が確保できたら行くことと思って。」

坂野

「ああ、なるほど。障害者の文化芸術フェスティバルですね。」

EAST END x YURI DAYONEの歌詞の一部をアカペラで歌う。おちゃらけた感じで、たがを外す。直立で、指くらい鳴らすかも。

語り ボエム、

昭和、平成、令和でも、何にも変わっていない、むしろますます杓子定規で生きづらいた、効率や能率が何だつて言う?同情するなら、仕事くれ、居場所くれ!!!

年老いたら、老人ホーム?家族でない子供から若者、犬や馬や牛や豚とも一緒に暮らすのもありじゃない?自分のやりたい事は自分で探す、人に押し付けられたくない。今私のやりたい事ってカラオケかゲートボールかな?ありのまま生きて、たくさんのものを吸収して、それをステージに反映させたいんじゃないの?

私、知ってる人は知ってるけど、私ってサー結構バカやってて、職場やコミティの有名なだつたりするけど、そんな事には負けないで、力いっぱい自分を耕して、後悔しない生き方をしたいんだもん。GOOD LUCK!!!

投げやりな展開になるかと思いきや、YOHKO、山下達郎のRIDE ON TIME(約4分25秒)でパフォーマンス開始。

終了後、再び中央でお辞儀して終了。

YOHKO

何だか作品の解説もしようと思つたけど、次回でもいいですか?それとふつとつ！編でモーニングLOVEマシーンどうしようかな?

今回小田和正の「つたえたいことがあるんだ」をアカペラに持つていくつもりだったんですが、最大のヒット曲とかぶる所があり、だつたら私は数年後ビデオと再放送と漫画でハマつた東京ラブストーリーの主題歌がいいのでは?特に北陸のようなノリがおとなしそうな所ではという事で、君の街で伝えたい事が、トレンドイドラマ、バブルがはじけていなかったら、順調に結婚しない症候群だのイケイケのノリで来たけど、逆にバブル崩壊で、生きづらいたから何とかしようつて、いう動きがあるのもわかっているんだけどね。

vii 「東京2020大会・日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバルグランドオープニング」2020年2月8,9日大津市のびわ湖大津プリンスホテルで開催された。

vii 高岡市の勝興寺を会場とした当ブロックセンター主催の展覧会。P44,45 参照。

scene4 あの日、あの時、あの場面で会って凄いな

● びわ湖大津プリンスホテル（昼頃）
2月8日。障害者の文化芸術フェスティバル。坂野、ホテル本館のソファで北関東・南東北ブロックフォーラムの内容を、全国連携事務局のビッグ・アイ職員2名と打ち合わせ。大津駅からのシャトルバスが到着。大きなリュックとアルコール飲料を片手に持ったYOHKOが降り立つ。

坂野 「こんにちは。」

YOHKO 急に下ネタを大声で発する。打合せをしていた3人の他、多くの方が振り返る。

坂野 「打合せ中なんで、じゃ。」

3人呆然とする。

● びわ湖プリンスホテルバリアフリー映画会場前
坂野、偶然、米田代表、角地と合流。

坂野 「YOHKOさん、丁度会場に降り立ったタイミングで遭遇しました。滋賀まで来ましたね。」

角地 「僕も会いました。振り返っていたら、あっ！って言っちゃいました。」

米田 「・・・笑」

● びわ湖プリンスホテルコンベンションホールクロック（夜）
坂野、一緒に来ていたみんなでいきるの職員の小川、渡辺と夕食を食べた後に荷物を受け取りにクロックへ。YOHKOと遭遇。

YOHKO 「誰ですか。同僚ですか、友達ですか、渡辺さんですか。」

渡辺 「はい、渡辺です。」

坂野 「確かに渡辺さんだ。違う違う、いつもNASCの電話に出る渡辺さんは違う人ですよ。女性ですし。」

YOHKO 「ホテルはどこですか。帰りますか。シャトルバスですか。ここに泊まっていますか。米田さんと一緒にですか。」

坂野 「僕は京都泊です。ここは早々に埋まってダメでした。もう少し色々見てから帰ります。米田先生の泊まっているところは分かりませんね。」

渡辺 「いきなり渡辺さんですかと言われてびっくりしましたよ。」

と同時に3月7日のブロック実践報告会が中止になることを伝える。

YOHKO 「えー、大丈夫ですよ。私、右向け右みたいな感じで、一斉に自粛ムードになるの嫌なんです。マスクは絶対しない。」

坂野 「頼んでおいてYOHKOさんには申し訳ないけど、今回は自分の判断で中止にしました。やらないことで何もなければよしとしたい。」

YOHKO 「ダゲロ、意外と真面目なんですね。」

パフォーマンズ&トークショー

会場に椅子が一脚置いてある。坂野の進行でYOHKO、入場しホエムを語る。BGMが流れるのと同時に、椅子を中心に独舞を演じる。終了後、一度部屋から退出し動物の被り物を被って再登場。坂野が聞き手になりトークショーが始まる。パフォーマンズについての説明はなく、これまでの生い立ちや日々の暮らしやいきづらさ・怒りについて語る。最後に急に下ネタを発し、会場を退出する。坂野、会場がドン引きだとコメントしプログラムを終了する。



● 新潟駅付近飲食店（夜）
研修終了後に、事務局・登壇者で反省会。YOHKOも参加。角地の隣の席となる。

角地 「今日の出来はどうだったんですか。」

YOHKO 「話の流れはめちゃくちゃ。角地さんはどう思いました？」

角地 「なんつーか、パフォーマンズと語りがつながってなかった

なんで知ってんだって。」

小川 「凄いい勢いでしたね。」

坂野 「フォロワーアップ研修の時に見せた、あしたの星の紙吹雪の写真、覚えている？」

小川・渡辺 「ああー、あの人が。」

「青陵大、金沢傾向と対策」と書かれた表題のメールが届く。

メール

YOHKO 「大津の事を挙げれば本当にキリがないですけど、支援系の人

も混じっていたんだらうけど、新潟のようなお涙頂戴でないのが良かったかも。

今回何だか講師とかって本当に大丈夫かよって本当に思っています。でも金沢をクリア出来れば、他の県もいけるんじゃないか？そうなるかと主催者さん側からの交通費問題とかもあるのかな？

その講師枠で失敗しないために、ホワイトボードか画用紙、太いマジックとかって用意できませんか？市内の公民館のワークシヨブやどっかの青年の家のユースセミナーでやっていたような、これを一言で言うとか、とかそんな感じで。時にはノーコメントとかわからないとか、とにかく自分が暴走したくないので。」

坂野、備品の準備と、講師を依頼するときは旅費と謝礼をお支払いする旨を返信する。

scene5

中止その2 ありふれた言葉が私を縛って多分もうすぐプチ切れる（お互いに）

● 高田公園オーレンプラザ（昼頃）

2月22日。次年度の市民参画型展示会の内容についての打合せ中に、石川県の菊氏より入電。石川県内で新型コロナウイルスの罹患者が発生したとのこと。参加者層がほとんど福祉施設関係者であることから、坂野の判断で3月7日のブロック実践報告会を中止とする。

● 新潟青陵大学（朝）
2月25日、福祉現場におけるアートマネジメント研修。YOHKOが到着

YOHKO 気がする。あと僕は、下ネタ苦手なんですよ。」

坂野 「分かってはいるけど、金沢が中止になったのがショックで。また県外で何かできるチャンス、ありますかね。」

YOHKO 「中止にしたのは申し訳ない。その上で話をすると県外で話すチャンスはこれからもあります。実際、踊りと話はリンクしてなかったけど、YOHKOさんの語りをみんな聞き入っていました。ただ、下ネタは許される場とそうではない場があつて、例えば新潟であれば多少は許せる。でも角地さんのように苦手な人もいる。イベントの主催者との打ち合わせしだいですね。」

「米田さんは下ネタ、大丈夫ですかね？」

坂野 「めちゃくちゃ嫌がります。イベントに関わらず相談とか普通の会話でも苦手だと思います。男同士の会話でもほとんど下ネタはでないですね。」

「そうですね。もつとトークを鍛えます。3月20日、米田さん、福井県で講師をしますよね。あのイベントはやる予定ですか。」

「今のところは。ただ中止になる可能性もあります。」

電話

2月26日。YOHKO、福井芸術・文化フォーラムの荒川氏に、3月20日開催予定の『いる みる つくる』が本当に実施されるか確認の電話を入れる。荒川氏より、新潟から来ることに対するお礼と、現状は実施予定だが今後中止になる可能性がある旨を伝えられる。「荒川さんも怒り心頭ですよ〜」と言い電話を切る。

3月10日。坂野、福井芸術・文化フォーラムの荒川氏と連絡をとり、3月20日に開催予定であった『いる みる つくる』を中止することをホームページ・Facebook等で発表した。

3月中旬。YOHKOより3度入電。

YOHKO 「やっぱり福井県も中止になってしまいましたね。仕方ないです。やっぱりあいつが許せない。一方的にマウントをとって。許せないですよ。」

坂野 「今更ですけど、その人に会ったことがないんですよ。な

そんな人に関わっている時間を使うんだったらワールドダンスやあしたの星に向け、良い作品を作る、取り組んでいく。

その後、坂野より原稿の内容をメールでYOHKOに確認したところ以下の返信があった。

メール
YOHKO

標題 Re:ざつと拝見しましたけど。ミカンでかぜ、コロナ対策？自宅のPCはXPなので、近いうちに出先のPCでも確認してコメントしたいんですが。思い当たる人のエピソードは問題ないんですけど。

あしたの星3は横山輝一でもホワイトベリーでもなく、確か寺尾聡のアカペラルビーの指環と、シャドーシティーをBGMで、夜行列車、ミッドナイトバスですよ！もう一度プロット送りましょうか？半年ぐらい前なのに、出張とか続いてゴチャマゼなのかな？坂野さん。でもわかります。忙しすぎると記憶とぶし。角地さんの写真エピソード思い出したけど、いつもご用達の美容院の撮影許可おりましたが、抜き打ちはNG！必ず店長に事前連絡をする。店員は写さないが条件です。

あと、私のシモネタが限られていて、精神的な恋愛が多いっていう、言い訳メール見事割愛されていましたよ？

滋賀エピソードは、金曜日夕方に到着するも、イオンでタコ焼き食って、全面的に棄権。親たものは、障害者見世物市に特化したもの。朝から食っていなく、アルコール注入の為、間違ってもみなさんに会うとは絶対になかったと思っただのと、あんなキタナイ、穴だらけのジーパンを久しぶりに履いたので、絶対にニアミスする事はなかったこと。ステージとか舞台にこだわれば、本当は坂野さんたちの参加しただろう、シンポジウムにいたんだらうけど。(実際こっちの方が、居眠りしても許されそうなので、またゆっくりコメントします。)

エンドクレジット

字幕「おわり、そして新しいはじまり」

自分なりにこの1年半を言葉しようとしたが目に見えるとこだけで判断するような人間だと思われたくないことからコメントは差し控えたい。15日間は電話に出ないでおこうと思う(坂野)。

YOHKO
坂野
YOHKO
坂野
YOHKO
坂野
YOHKO

ので同意を求められても良く分からない。どっちが悪いとも言えない。ただYOHKOさんは傷つけられたという事実があります。その人と会ってみれば少しは分かるのかもしれないが、

「会う必要はないですよ。じゃあ私のこの怒りや憎しみはどう消化すればいいんですか。」

「よく分からない。自分がYOHKOさんの話に全面的に同意して、あいつが悪いと言ったとしても解決するのか。」

「心の傷や過去に平気で踏み込んでくる無神経さが許せないんですよ。」

「それは放っておくことはできない？自分なんかは割と苦手な人はすぐ視界から消しますよ。極力関わらない。」

「それができれば楽なんですけど。永遠に覚えてる。」

「YOHKOさん、記憶力めちゃくちゃ良いですもんね。そういう問題じゃないか。提案なんですけど、YOHKOさんがNASCと関わってからの経過を報告書にまとめてみませんか。もちろん隠すところは隠しますし、ちゃんと原稿は確認してもらいます。」

「かまいませんよ。むしろ隠さず実名もどんどん出してください。送ったメールもそのまま使ってください。どのくらいのページ数になりますか。」

「ありがとうございます。そうですね、10ページぐらいにまとめる予定です。完成したら50冊ぐらい送るのでどんどん配ってください。」

「少しは救われるかも。何人に伝わるかな。」

あとがき

過日、角地の携帯にYOHKOから長い留守番電話が残される。要約すると左記のとおり。

1 報告書について

個人名をあげて批判するような形はやっばりやめた方がいいかも。

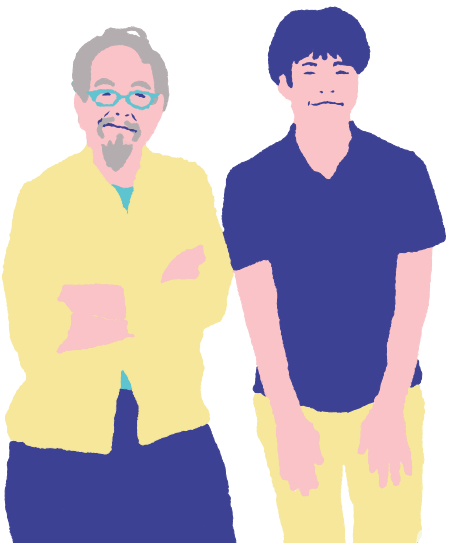
2 これからの人間関係

目に見るところだけで判断するような中途半端な人は相手にせず、東京タワーや雲の上から、能あるタカのごとく爪を隠し、高飛車キャラとして関わる方が良くはないか。

3 表現活動について

ある声

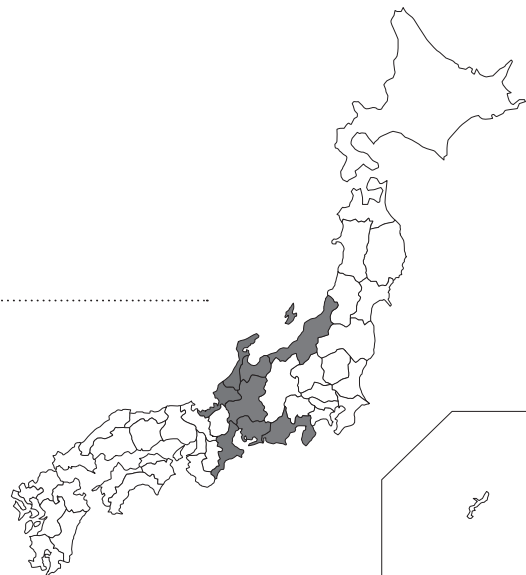
変なおじさんがいるなあと思ったが、
公募展を通して、
アーティストとしての上原さんの
一面を知っていくみたい



東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動 広域支援センター事業について

今年度は、ブロック内の各支援センター担当者や自治体担当者、支援センターに準ずる活動を行う団体の情報共有を目的としたブロック会議を9月に行いました。そこでは前年度の運営状況、個別課題をヒアリングし、それを基に研修会の企画を進めました。各センター毎に事業規模の差が大きく、課題も様々です。各センターの状況や課題にあわせ、ブロックセンターが事業内容を精査し研修会を企画・実施することで各センター担当者の資質向上に繋がることをねらいとしました。

38 ページからの各県の支援センターの紹介は、各センターへの巡回や相談を基に、その特徴や印象を当センター長が記しました。



【富山県】
富山県障害者芸術活動支援センター
ばーと◎とやま (BE=ART ◎ TOYAMA)
実施団体：
特定非営利活動法人 障害者アート支援工房ココペリ
〒933-0115
富山県高岡市伏木古府元町 2-5 (工房 COCOPELLI 内)
TEL 070-2643-0796
Mail beart.toyama@gmail.com

運営団体は支援センター以前より、展覧会事業やアトリエ活動を積極的に行っており、作家の発掘によつての質の高い展覧会を開催しています。また、独自にグラフィックデザイナー関係団体とのネットワークも有。今年度はさらに福祉施設へのネットワークを広げるためにブロックセンターと共催の展覧会を富山県内で実施しました。

【石川県】美術
文化・芸術活動支援センターかける
実施団体：
特定非営利活動法人 地域支援センターポレポレ
〒920-1346
石川県金沢市三小町野イ 3-2
TEL 080-7484-9349 FAX 076-287-0886
Mail po0po0.kakeru@m.email.ne.jp

運営団体はどんなに重い障害がある方でも地域で暮らせる仕組みづくりを行ってきました。そのため、支援センター開設以前より福祉施設のネットワークを持っています。センター開設1年目ということもあり、県内のネットワークをより広くするために、作品のとらえ方を学ぶ研修会を行いました。

【岐阜県】美術・舞台芸術
岐阜県障がい者芸術文化支援センター
(tomoni アートサポートセンター：TASCぎふ)
実施団体：公益財団法人 岐阜県教育文化財団
〒502-0841
岐阜県岐阜市学園町 3-42 ぎふ清流文化プラザ 1F
TEL 058-233-5377 FAX 058-233-5811
Mail tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp

公立複合施設内にあり、運営団体はホール事業もおこなっています。舞台/ホールがあることが特徴のため、今年度はアクセシビリティ研修会の企画提案、実施をしました。

【静岡県】美術・舞台芸術
静岡県障害者文化芸術活動支援センター みらーと
実施団体：
認定特定非営利活動法人 オールしずおかベストコミュニティ
〒420-0031
静岡市葵区呉服町 2-1-5 5 風来館 (ごふくかん) 4F
TEL 054-251-3520 FAX 054-251-3516
Mail info@mirart-shizuoka.com

運営団体が障害のある方の就労・工賃向上の中間支援をおこなっているため、県内広くにネットワークがあります。当該センターの他に県内の東西にも支部を置き、より広い地域での活動支援を行っています。授産製品のコンクールを行っているため、商品づくり等に関心が高い方が多く、より障害のある方の作品を使った商品展開をするための広報研修会を企画、実施しました。

【愛知県】美術・舞台芸術
あいちアール・ブリュット ネットワークセンター
(AANC)
実施団体：特定非営利活動法人 楽笑
〒443-0021
愛知県蒲郡市三谷町須田 10 番地 68
TEL 0533-66-6228 FAX 0533-66-6229
Mail aanc@rakusho.info

県行政がアール・ブリュットの発信に積極的なため、作家発掘や発表の機会が多いのが特徴です。支援センターは3年目。お寺や街なかを使った複合的なイベントを開催しています。今年度はブロックセンターへの大きな相談はなく、昨年同様巡回を行いました。

【新潟県】美術・舞台芸術
新潟県アール・ブリュット・サポート・センター NASC
実施団体：社会福祉法人 みんなでいきる
〒943-0834
新潟県上越市西城町 2-10-25-307
みんなでいきる法人本部内
TEL 025-530-7264 FAX 025-530-7261
Mail info@niigata-artbrut.net

国民文化祭/障害者芸術文化祭の開催県だったため、県内各地で開催される文化・芸術イベントに対しさまざまな方が参加しやすくなるよう、アクセシビリティを整えることが課題となるため、専門の講師を招き研修会を実施しました。



石川



富山

1年を彩る大絵馬

富山県高岡市にある射水神社
境内の一角に、ひとときわ目をひきつける大絵馬が
あります
多くの方が足を止め、パシャリ、パシャリと写真を
撮ります

平子 秀出

富山県では、障害のある方の表現を様々なところや
プロジェクトで楽しむことができます

郵便局
学校
お寺
デザイナー
アーティスト

プロジェクトを進めていくのは、中々大変な作業の
連続なのですが、ばーとの米田さんはいつも目がキ
ラキラして誰よりも動いています

全力で遊ぶ、こどものようです
そんな米田さんの姿を見て、まわりの人もキラキラ
してきます
今日も伏木のガレージからワクワクする冒険が始ま
ります

特定非営利法人障害者アート支援工房COCOPELLI
富山県・富山県障害者芸術活動普及支援センター
ばーと◎とやま

絵馬から1年のパワーをもらえるようなものでした。来年はどんなもの
を目にできるか、それを楽しみに足を運ぶ方も多いのではないかとと思
います。談・写真提供者

アクセシビリティってなに？

「障がいのある人と、展示会と一緒に見に行きたい…」
「でも、鑑賞マナーとか難しいし、作品を触ったり、
大きい声を出す事もよくあるし、仮に見に行ったらとし
ても3分もあれば終了、早く帰ろうってなる。」

「誰もが楽しめる○○といったようなイベントは多
いけど、やっぱり行っても迷惑になるんじゃないか？
観ても分からないんじゃないか？って考えてしまう。」

「障がいがある人も仕事、買い物、レジャー、選挙と
か「外」に出る機会は増えたと思う。でも避難訓練、
町会行事、マナーが伴うイベント、などまだまだ「ア
クセス」しづらい場所は多いなと感じる。」

「色んな所に出かけると迷惑かけるかも知れないし、
マナーを守れないかも知れない、それでも「外」に出
て色んなドラマチック（トラブルとも言う）をみんなに
見てもらって、時には巻き込まれて頂いたりする事で
少しずつ開かれていってくれたらと思う。多分、無傷
では済まないかも知れないけど、その先に、自由に「ど
こにでも行ける」社会があるような気がするから。」

『どこでも行ける』誰でも来て良いよ』という事だと
思う。なんか、お互いが受け止めている感じが良い。
理解されなくても、寛容でなくても、ぶつかりなが
らでも一緒に良い。「あなたとわたし」ではなく「わ
たしたち」と言える社会を目指して。

特定非営利活動法人地域支援センターばればれ
石川県・文化・芸術活動支援センターかける



愛知



岐阜

圧倒的な事業展開

「うちで支援センターをやりたい。」
2017年の12月。岐阜県教育文化財団の高木理事長と初めてお会いした時の第一声。その気迫にたじろいでしまいました。それ以降、高木理事長とお会いすると妙に肩に力が入ってしまいます。

まさしく有言実行。次年度の7月には、tas cぎふを立ち上げ以後快進撃が続けます。拠点のある岐阜市以外にも活動が広がり、作家の発掘や展示会、研修会などを開催しました。

人材育成にも本格的に取り組み、アートサポートー養成講座を通じて、障害のある方の表現活動の支え手を育てています。

なんといつでもオープンアトリエ。

2019年度はほぼ常設化となり、開催回数はなんと約50回。誰でも表現活動を楽しめる場をきっかけに、様々な方の出会いがあり着実に芸術文化活動を通じて交流人口を増やしてます。

活動の基盤を整えつつ、常に新しいことにチャレンジしている姿は中間支援組織のお手本となる動きです。なんでそんなに凄いのか。

写真を見ただけで、皆さんお分かりですよ。素敵なチームです。

公益財団法人岐阜県教育文化財団
岐阜県障がい者芸術文化支援センター
tomoniアートサポートセンター（TASCぎふ）

今泉さんから見たAANC

ブロックセンターの評価委員である今泉さんに、地元のAANCの印象をこっそり聞いてみました。今泉さんは、AANCの協力委員としても3年間関わっています。

「うーん。毎年新しいチャレンジはしているけど、センターができた当初と比べると元気がないかも。よく分からないながらも、始まった頃は、あでもない・こうでもないと言って楽しくやってた気がします。我々協力委員の提案で実現した企画もありました。年々、企画に込められた意味や熱量が薄くなっていく感じがしますね。3年経って、計画的に事業を実施することができるようになったとも言えますが。」

良く分からない内容だけどこれがやりたい！みたいなギラギラしたものと比べるとこちらもおおっとなるかも。愛知県内は色んな展示会もあるし、表現活動をしている施設も多いので、その中で存在感を示していくのは難しい。その点では、相当悩んでいると思います。だから学生を巻き込んだり、カウンターパートを探し始めています。探しあてた後のフォローや関り方も大事です。研修やイベントをやるにも、目的の明確化や参加対象のイメージは大切ですね。

特定非営利活動法人楽笑
あいちアールブリュットネットワークセンター（AANC）



新潟



MODEL : YUTO TAKESHITA AGE:22



静岡

Look@me!

JR静岡駅北口地下広場。
真つ赤なランウェイを、それぞれのリズムでウォーキングするモデル。ポーキングが決まるたびに、観客からは拍手が送られた。

20名だった定員は瞬時に埋まった。
衣装合わせや、ウォーキングレッスンへの参加が必須だったにも関わらずに。このこと自体が新たな体験だ。

ファッションショーという響きには、パフォーマンスや舞台芸術という言葉の敷居を低くする何かがあるのかもしれない。誰かの前で自分を表現することには変わりないのだが。

20〜30代男性の出演者が多い。
これも面白い特徴だ。
スポットライトを一身に浴びて観客からの視線を強く感じる舞台。勝手にかわいさや華やかさといったイメージをイメージしていたが、かっこよさが際立っていた。

生後10か月〜63歳まで約40名が臨んだファッションショー。舞台芸術の新たなカタチを見せてくれた。これからも多様なモデルが歩き続けるだろう。

認定特定非営利活動法人 オールしずおかベストコミュニティ
静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらいと

新潟県が見据える展開

1 人材育成

何より、障害のある方の表現活動を広げていける人材が必要。県下全域で、様々なプロジェクトやネットワークを作っていく人材を計画的に育てたい。ここは徹底的にやる。

2 合理的配慮

誰もが表現活動を楽しんだり参加することができる社会は、誰にとっても暮らしやすい社会。着実に環境を整備していきたい。

3 対価

アーティストにしっかりと対価が発生する仕組みをつくりたい。それも分かりやすく。

4 支援センターの自主運営

将来的に公費に頼らない支援センターの運営は必須である。地域に必要とされる組織に昇華できれば、運営資金の確保も可能はず。

5 具体的に

以上1〜4について具体的なアクションが重要。構想ではなく行動で。計画を立て少しずつ着実に。

桑原さん（新潟県福祉保健部障害福祉課）の見据える未来は明確です。とても頼りになります。5が大事ですね。

社会福祉法人みんなでいきる

新潟県オール・ブリュット・サポート・センターNASC



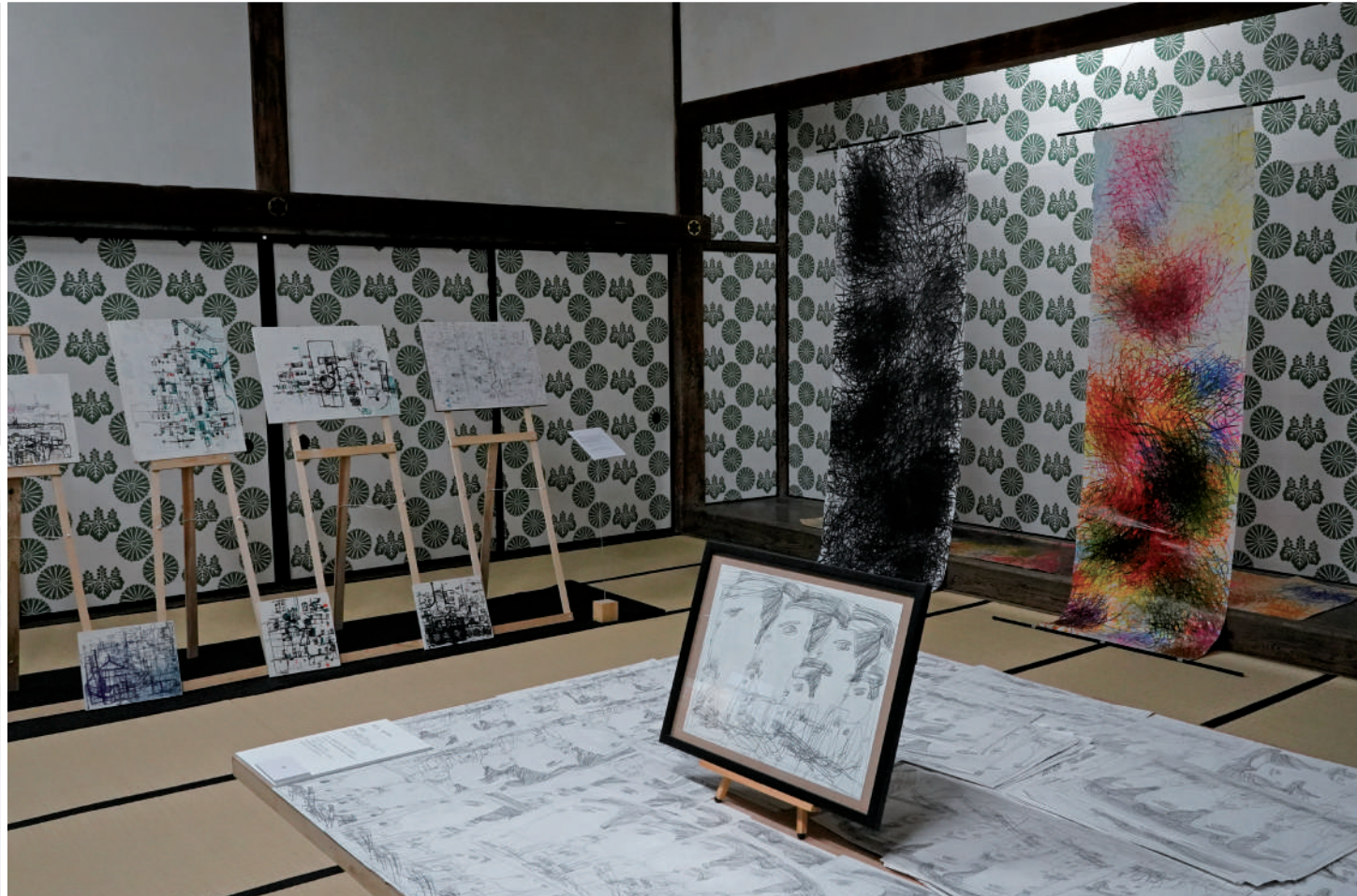
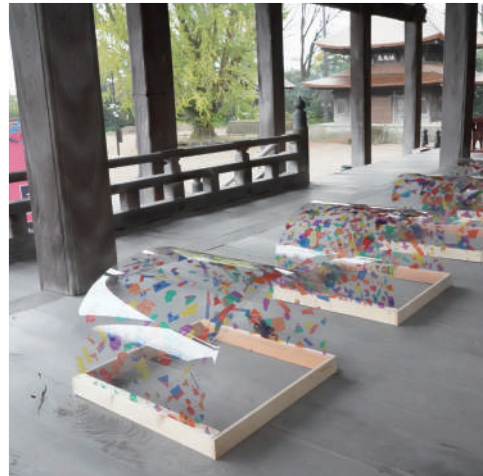
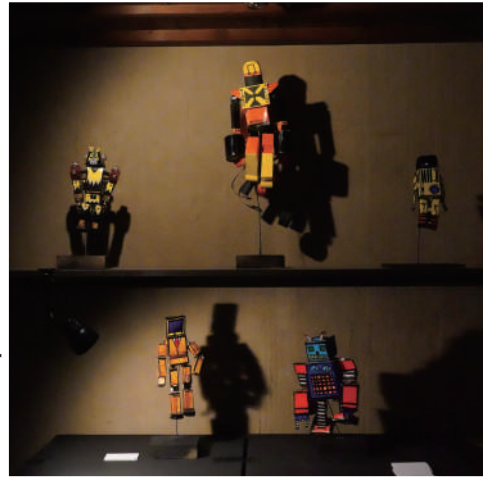
アール・ブリュット作品展
「和日 作美 素生の表現者たち」

会期：11月16日（土）～11月24日（日）
会場：勝興寺（富山県高岡市伏木古国府17-1）
主催：富山県障害者芸術活動支援センター ばーと◎とやま、
東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター、
勝興寺、公益財団法人勝興寺文化財保存・活用事業団
来場者数：1,795名

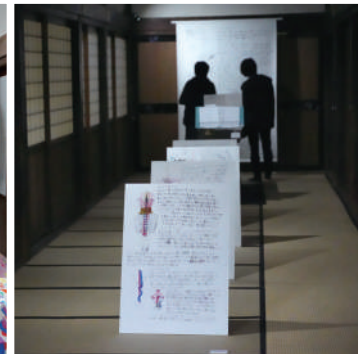
[出展者]30名
浅野達哉、荒見真央、井口直人、池上菜々、磯野貴之、井上優、上村空、H、江戸雄飛、岡元俊雄、KATSU、鎌江一美、古久保憲満、SADA、シノタケ、自立サポートJam、田村拓也、辻龍之介、中谷稔、奈良朋紀、西出貴人、保莉彰、升山和明、丸山弘常、ムラタクン、村中洋介、山際正己、わじまかえで、わじまかんだ、渡辺富弘

[上映会]
11月16日（土）14:00～16:30
映画「描きたい、が止まらない」上映
作家 古久保憲満さんと父 古久保満さんによるトーク

11月23日（土・祝）14:00～16:30
映画「オキナワへいこう」上映
大西暢夫監督トーク



滋賀、福井、石川、富山、新潟、岐阜、愛知より、30名のアーティストが「おどろいて やがて ほほえむ」独創的な作品を紹介。ドキュメンタリー映画上映やワークショップなどを開催した。



ブロック 研修会

■富山県

アートディレクター研修

「アートとフクシのコラボークン

～アートと福祉がつながってはじまること。」

講師：アサダワタル（文化活動家）、磯村歩（関フクフクプラス代表／桑沢デザイン研究所教員）、福島治（グラフィックデザイナー／東京工芸大学デザイン学科教授）、坂野健一郎（東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター長）

日時：2019年8月31日（土）10:00-17:00

会場：MUROYA（富山市東岩瀬村1番地）

参加者：20名

「対談：汽水域研究会トーク」

登壇者

あ：アサダワタル

よ：米田昌功（富山県障害者芸術活動支援センターばーと◎とやま代表）

さ：坂野健一郎

よ：アサダさんの取り組みを前段でお聞きしたが*、思い出や記憶がキーになっている。それらを紡ぐためのツールとして、音楽やラジオは意識的に選ばれたものなのか。

あ：もともと音楽をちゃんと演奏する立場にいて、バンドで曲を使って演奏していた。その一方で、一般の曲を使ってDJのように創造することに興味があった。そして、ある時からそれらを使って、その場でどういう場づくりができるかを考えた。同じ曲でもその曲が入れ子になり、そこに入るのとは別々の思い出だったりするとき、じゃあ、それって同じ曲じゃないな、

これはいろいろできるなと思った。曲を聞くことでその場で語り合うとか、その人の個性が共有されたらいいかなと思ってやっています。

よ：音楽をツールとしてコミュニケーションを繋ぐということだと思っのですが、繋がり希薄になってきている現在、昔の寄り合いや盆踊りが成り立ちにくい場所で、ラジオはそれに代わるものとして、直接繋がらなくても共有できるものができていると思っって面白く感じました。

あ：初めて僕の活動を知る人は、カラオケ映像・ラジオも、はって？かんじ。下神白団地でも最初は全く理解されない。自治会の役員さんは理解を示そうとしてくれていたが、他の住民さんはわからないまま、けどやってしまう。そこはやりながら体感してもらおう、続けるうちに、新しい繋がりが生まれる。口実を作っているのだと思います。

よ：共有できたときに、人と人が会う場所が自然にできあがってきますよね。いろんなことに転換できそう。

さ：私たちも小さくてもカオスなステージのお祭り、「あしたの星☆」というのを3年続けている。先日小さい規模だが開催した。障害がある人もない人も、なんでも表現していいよとやったら、高齢者しか来なかった。

あ：おー、興味がある！
さ：演者は全て高齢者、よくわからないダンス。マジックやったり、女装してきたり。例えば「章駄天」と書いたTシャツを着たおじいちゃんがステージ内を走り回っていたり。そういうのを見てみると、作品のクオリティ問わず文化活動というのは掘り所なんだな、と、繋ぐ力が強いなと感じている。

あ：すごく見てみたい。こういう事業をやっているとき、よくわからないものが集まってくるような声かけて難しくないですか。音楽イベントの出演、美術の公募展は比較的わかりやすいけど、その枠では章駄天のTシャツで走るだけの人はなかなか参加できないし、落選になる可能性がある。そういう何これ？という表現に出会うための仕掛とか、広報など声かけってどうしたらいいのかな、と自分でも思っている。

さ：難しいですね。例えば「障害がある方も、ない方も」って示しても、結果としては障害のある方が集まるケースが多い。

「その訳のわからないことをするときには耐えられる力。」

本当にいろんな人に参加してほしいと思っっているので、伝え方は難しいなと思っっている。

よ：思い出作りと言うと気恥ずかしいですが、障害者・高齢者の支援もある意味思い出作りみたいだなあと。そういうのは自分では敬遠してきたので思いを新たにしまきたなと思っった。

あ：ワークショップでは、支援者も一緒に前に出てほしいと思っっている。自分も口では言うけど、そう簡単ではないと感じている。今品川区の現場でワークショップしながら、いかにスタッフも踊り、演奏してもらおうかということには苦労がある。例えば、自由に音遊びをするワークショップを音楽家の方とやっていて、利用者さんへ楽器など渡して、支援者とユニットでバンド組んで、5分間その場で一緒に音を出す。初回はものすごく不穏な空気が流れた。「これ、このままで大丈夫なの？」と名づけようのない時間に不安になるのはほぼ支援者さん。初回は誰でもそうですね。支援される状態関係なく混じっていくことを理想的にできているかどうか自信はないんだが、回数を重ねるたびに交わってきているなという実感は確実にある。その訳のわからないことをするときには耐えられる力。それは世の中の常識との戦いであり、支援そのものの常識とも戦い。当然支援スキルとか必要なのは自分なりに理解しているつもりだが、こういう時間を共に過ごすことの体力を上げていく。章駄天のTシャツを着たおじいちゃんが走っているのを見るときに流れる空気とか、これに耐えてみよう、みたいな。見続けることは、スタッフ研修にもなりそうです。

よ：見届けた時間を褒め合うことで、成長できると思っています。



*アサダワタルプロジェクト「ラジオ下神白」校歌カラオケ映像制作プロジェクト

*アサダワタル プロフィール

1979年大阪生まれ、文化活動家/アーティスト、文筆家、品川区立障害児者総合支援施設コミュニティアートディレクター。音楽をはじめとした「表現」を軸に、福祉施設や復興住宅、小学校や住居や街中で、属性に埋もれない「一人ひとりの個性」に着目したコミュニケーションを行う。著書に「住み開き 家から始めるコミュニケーション」（筑摩書房）など多数。東京大学大学院、京都精華大学非常勤講師、博士（学術）。



ある声

投げかけに対して偶然にできたなにか、
自分がこうだと思ったところから
「どれだけズレるか」がおもしろい、かなと。



■岐阜県 アクセシビリティ研修

映画『記憶との対話～マイノリマジョリテ・トラベル 10年目の検証～』の上映を通じて、様々な視点でアクセシビリティとは何かを講師を交えて話し合った。

講 師：縦山智子（マイノリマジョリテ・トラベル・クロニクル実行委員会代表）、長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院 助教）
日 時：2019年9月24日（火）13:00-16:30
会 場：ぎふ清流文化プラザ（岐阜市学園町 3-42）
参加者：20名

■静岡県 広報研修 「フクシとアート 広報研修会」

講 師：小松理虔（地域活動家・ライター）、松田崇弥（株式会社ヘルポニー代表取締役社長/CEO）
日 時：2020年2月17日（月）13:30-16:30
会 場：障害者働く幸せ創出センター（静岡市葵区呉服町 2-1-5）
参加者：28名

■石川県 アートディレクター研修 「障がいがある方のアート活動を支援するときに知っておきたい”あれやこれや”」

講 師：角地智史（NASCアートディレクター）
日 時：2020年1月16日（木）14:00-17:00
会 場：武蔵ITプラザ5階研修室2（金沢市武蔵町 14-31）
参加者：25名

■新潟県 アートマネジメント研修 「福祉現場におけるアートマネジメント研修：ひっかかりをできるだけつくろうとするとアートもでてくるよねというはなしー祝福と新鮮さとケアとー」

講 師：YOHKO（パフォーマー）、上原木呂（アーティスト/上越アール・ブリュット公募展出展者）、大津茜（南魚沼福祉会/上越アール・ブリュット公募展出展者）、今井正人（ケアカフェ巻実行委員会）、小出真吾（デザイナー）、坂野健一郎、角地智史
※大原裕介氏は体調不良により欠席
日 時：2020年2月25日（火）10:00-16:30
共 催：ケアカフェ巻実行委員会
会 場：新潟青陵大学1号館（新潟県中央区水道町 1-5939）
参加者：40名

■福井県 【※開催中止のため予定を掲載】 アートディレクター研修 「いる みる つくる～カフェとアートとおしゃべりと～」

講師：米田昌功（ぱーと◎とやま代表）他
日時：2020年3月20日（金・祝）10:30-16:30
会場：北ノ庄クラシックス（福井市中央1丁目 -21-36）

■三重県 【※開催中止のため予定を掲載】 アートディレクター研修 「アール・ブリュット&ミュージック・ブリュット ～自由から世界が始まる ART2019」

日時：2020年3月29日（日）12:30 -
会場：三重県教育文化会館（津市桜橋 2丁目 142）

ブロック実践報告会 【※開催中止のため予定を掲載】 『あいだのとらえかた2 フクシ×アート×○○』

日 時：2020年3月6日（金）・7日（土）
会 場：1日目：ぼれぼれ工房山の家（金沢市三小牛町イ 3-2）
2日目：金沢市民芸術村アート工房（金沢市大和町 1-1）
講 師：1日目：菊義典（NPO法人地域支援センターポレボレ）
2日目：武捨和貴（NPO法人リベルテ理事長）・久保田翠（認定NPO法人クリエイティブ・サポート・レッツ理事長）・東海・北陸ブロック各県支援センター等・菊義典

アーカイブ事業

今年度は8県の支援センター担当者との連絡・情報共有として、ビジネスチャットアプリ「Slack」を導入しました。ブロック内の各支援センターで行われている普及支援事業の把握とアーカイブを目的としました。同時に新潟県でのNASC内でも、業務進捗を共有するために導入し、活用する機会を増やしました。

9月に開催したブロック会議では各センターへアプリの説明と、事業のアーカイブを目指し、情報や素材提供を以下2点お願いしました。

- ・情報共有…センター主催事業や関係事業、皆さまへお知らせしたい研修会など
- ・事業記録…研修会や展覧会のレポート、記録写真など

[約半年間使用してみた]

- ・「Slack」は、支援センター担当者の皆さまにとって新しいやり方であり、他の発信方法との差別化がしにくいいためか、活発なやりとりが少ない。
- ・事業記録写真や作品画像の保存、共有はセンターの事業規模によって差が大きくある。また、やり方は違っているがすでにアーカイブができていないセンターがほとんどである。

[課題・目標など]

- ・「Slack」はこれからも継続して周知していく。
- ・相談事業の共有とアーカイブは個人情報に留意しながら進める。
- ・事業記録写真や作品写真のアーカイブ（画像保存）は、ブロックセンターでまとめることは難しいことがわかった。個人情報に伴い、画像の使用許可や権利の問題があるため。
- ・企画の成り立ちや研修会のレポートについては、引き続きブロックセンターからの巡回訪問で各センターへの聞き取りを継続する。

相談/ブロック巡回訪問/ブロック連絡会議

[1] 相談

昨年の相談件数 682件 → **1,015件**

県名	富山	福井	静岡	岐阜	石川	愛知	三重	新潟
件数	182	93	105	72	145	15	101	302

今年度は新潟県で第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会が開催され、また、それに伴って各県でのサテライト展示などの問い合わせもあり、昨年度に引き続き相談件数が伸びました。また、支援センター開設間もないセンターや未設置の県担当者からの問い合わせも多くなりました。昨年度との違いで顕著なのはEメールでの相談が多くなったことです。これによって、記録に残しやすくなりました。また、お互いの就業時間を選ばず効率化を図ることができ、その後の巡回訪問やブロック会議での対面での話し合いがスムーズに進められました。

[2] ブロック巡回訪問及び調査

県名	富山	福井	静岡	岐阜	石川	愛知	三重
回数	3回	2回	2回	1回	3回	1回	3回
日程	8,11,1月	1,3月	8,2月	9月	6,9,1月	6月	10,12,3月

※新潟県は当法人が運営していたため、カウントせず。

[3] ブロック連絡会議

第1回 静岡県
日時：2019年8月7日(水) 13:30～16:00
会場：静岡県労政会館5階 第2会議室
参加者：15名
第2回 岐阜県
日時：2019年9月24日(火) 11:00～16:30
場所：ぎふ清流文化プラザ
参加者：14名

ブロック内8県の支援センターや未実施県の行政機関・関係団体へ巡回と調査を積極的におこなうことで、各県の取り組みや課題の把握をすることができました。また、協力委員会を設置する愛知県・富山県への協力委員会への出席も行いました。(内、3月の両県の協力委員会は新型コロナウイルス感染防止のため、中止となりました。)



評価委員会

ブロックセンター全事業終了後、評価委員会を開催しました。令和元年度の評価委員は、出席/欠席者一覧の5名となります。

まず事務局より、今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、年度末である3月に予定していた福井県、三重県での研修会及び、石川県でのブロック実践報告会が中止となったこと、8県それぞれの支援センター及び、関係団体がどういった活動をしているか、またブロックセンターが考える課題は何かということを報告しました。

各県の支援センターは1年目で立ち上がったばかりの団体、また障害者の芸術活動支援モデル事業から3年目とい

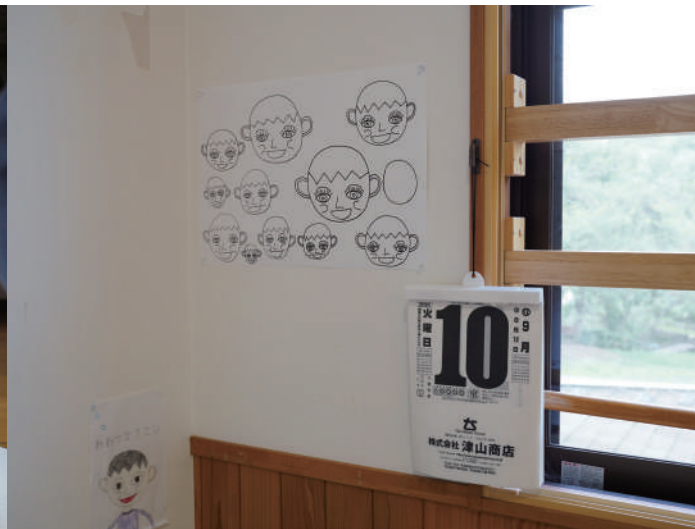
■評価委員会
日時：2020年3月18日(水)
会場：カネジュービル(愛知県名古屋)
出席者：今泉岳大氏(高浜市やきもの里かわら美術館主任学芸員)
垣尾良平氏(社会福祉法人中日新聞社会事業団常務理事)
中村一夫氏(株式会社伊藤園上越地区営業推進課主任)
欠席者：谷口菜月氏(フリーアナウンサー/元富山チューリップテレビアナウンサー)
長津結一郎氏(九州大学大学院芸術工学研究院助教)

う団体もあります。事業規模も県によって大きく差ができています。その8県を年間かけて巡回し、県ごとの実情を自治体担当所管課と支援センターを運営する団体へヒアリングし、調整をおこなったことに対して評価いただきました。

また、ブロックセンターや県毎の支援センターが主催する発表の場や研修会についてもご意見をいただきました。特に展覧会については、発掘を同時進行で行うものの、年数を重ねるにつれ、紹介する作品や作家が固定してしまう傾向にあります。

その課題について、「改めて、誰に作品を見てもらうのか。このような展示会に触れたことがある方はまだまだ少ない。どうやって見る人へ届けていくのか。を考えていくこと」「普及支援事業という意味では、0を1にすることが大切。継続することはとても大切なこと」というご意見をいただきました。これは改めてご意見を頂けて、当センターとして継続性をもって取り組むことの重要性を理解しました。

他には、愛知県在住の評価委員が2名いらっしゃるといことで、当ブロックセンター事務局からは距離が遠い静岡・愛知・岐阜・三重の情報の共有について、また、他機関とのネットワークの必要性など、評価委員会ながらもざっくばらんにご意見をいただくことができました。



■造形活動、表現活動をやってみたくと思ったときに参考になる本

**地域にひろがるオープンアトリエ
すすんで ひらいて つながるためのハンドブック**

もくじ：オープンアトリエのはじまり・自由に表現する場をつくる・自分たちのまちをアトリエに！・豊かな関係性を育む・表現を分かちあう・生活のなかにあるアート・4つのオープンアトリエ実践編

発行：一般財団法人たんぼほの家
(障害とアートの相談室)
2016年3月

https://artsoudan.tanpoponoye.org/wp/wp-content/uploads/2016/05/hb_16.pdf



■表現活動を支えるための支援センターについての参考書

**障害者芸術文化活動支援センター
設立・運営マニュアル**

平成26年から3年間実施された「障害者の芸術活動支援モデル事業(厚生労働省補助事業)」を取りまとめた冊子。全国12団体が取り組んできた実践を踏まえ、障害者芸術文化活動支援センターの設立および運営に関する基本的な取り組みとその方法について、事例を交えて紹介している。

発行：社会福祉法人グロー (GLOW)
～生きることが光になる～
2017年3月

<http://renkei-sgsm.net/wp-content/uploads/2018/09/sgsm-renkei2016.pdf>



**障害者の芸術文化活動における
支援のあり方に関する調査・研究**

報告書

福祉事業所での造形活動の各場面を分析、考察することで、造形活動における支援者の関わり方、視点を言語化することを試みました。本調査主任研究者である滋賀県立大学細馬宏通教授のもと、造形活動における作者と支援者の会話や行動を基に相互に影響している要素、事柄について分析しています。

発行：社会福祉法人グロー (GLOW)
～生きることが光になる～
2018年2月

<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000307893.pdf>



■現場で生まれる表現を、記録し伝える方法を紹介する本

**「どうしよう」からはじめるアーカイブ
- 作品を記録し、伝える方法 -**

障害者支援の現場で日々生み出される表現をどのように保存・記録したら良いかを考え、取り組んだ「デジタルアーカイブ」を紹介する本を発行しました。絵を描いたり、話したり、歌を歌ったり、日記をつけたり。こうした表現の数々を「どのようにアーカイブしたらいいだろう」という問いからこの本は生まれました。

発行：みずのき美術館+鞆の津ミュージアム
+はじまりの美術館
2019年2月

http://hajimari-ac.com/news/file/archive_forweb.pdf



■造形活動にまつわる、権利や著作権についての参考書

**障害のある人の作品にまつわる権利のこと
ハンドブック**

もくじ：作品を創作すると、誰にどんな権利が発生するの？・作品を利用して商品を作りたい！！・作品を展示したい！！

発行：社会福祉法人愛成会
(東京アール・ブリュットサポート
センター Rights(ライツ))
2017年3月

※直接 Rights まで、ご請求ください。
(TEL: 03-5942-7251)

<https://rights-tokyo.com/>



障害のある人の造形活動に関する相談対応参考例

アイサに寄せられた主な相談とその対応を1冊にまとめた相談対応参考例です。展示会の開催にはどんなことが必要か、グッズを制作するにあたり、作者とどのようなことを取り交わせばいいかなど、どの現場でも悩んだり疑問に思うようなこと12例と、その際に必要になる参考様式が掲載されています。

発行：アール・ブリュット
インフォメーション&サポートセンター
2019年3月

<http://info.art-brut.jp/files/soudantaiousankourei.pdf>



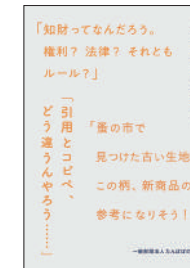
知的財産権学習ハンドブック

もくじ：知財にまつわる、あるある話
表現する/ものをつくるに関わる知財のエピソード

知的財産権のきほんのき
「知的財産権をもっと知りたい！」に答える
参考Webサイト&ブックリスト 他

発行：一般財団法人たんぼほの家
2019年2月

<https://chizai.goodjobcenter.com/>



【Facebook ページ】

<https://www.facebook.com/NiigataArtbrutSupportCenter/>

いいね数	1,309件
記事投稿数	33件
総閲覧数	24,990件
記事最高閲覧数	863件
内容	研修会・イベント広報/展示会周知

【ホームページ】

<http://niigata-artbrut.net/>

総閲覧数	3,592件
記事投稿数	8件

※令和元年6月14日～令和2年3月31日まで



**上越アール・ブリュット公募展
「もの語り」ガイドブック**

発行：社会福祉法人みんなでき

2019年10月 A5判/48P

<http://niigata-artbrut.net/nasc/news/707/>

ご希望の方へ郵送いたします。巻末記載の社会福祉法人みんなできまでお問い合わせいただき、送料140円切手を貼った返信用封筒をお送りください。



発行日 2020年3月

企画・編集・発行

社会福祉法人みんなでき

発行責任者：大島 誠 (社会福祉法人みんなでき代表)

デザイン：小出真吾 (IDEKO)

写真：角地智史・小出真吾 他

イラスト：富樫真美 (アートキャンプ新潟)

東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

〒943-0834

新潟県上越市西城町 2-10-25-307

社会福祉法人みんなでき 内

TEL：025-530-7264

FAX：025-530-7261

MAIL：info@niigata-artbrut.net

HP：http://niigata-artbrut.net/

本書は厚生労働省

「令和元年度 障害者芸術文化活動普及支援事業」

の一環として制作しました。



厚生労働省
「令和元年度
障害者芸術文化活動
普及支援事業」
ガイドブック

東海・北陸ブロック
障害者芸術文化活動
広域支援センター